麻原彰晃の世界 PART 2

尊師、麻原彰晃が斬る!

特別対談
麻原彰晃VS鹿島とも子（歌手）

現代文化、社会現象、超常現象に、
最終解脱者の鋭いメスが入る!
尊師、麻原彰晃の魅力満載の一冊!!

◆UFO&宇宙人の謎を明かす!
◆天才作曲家が語る音楽の真理!
◆幼児教育を語る
◆輪廻転生の仕組みを解く!
……他

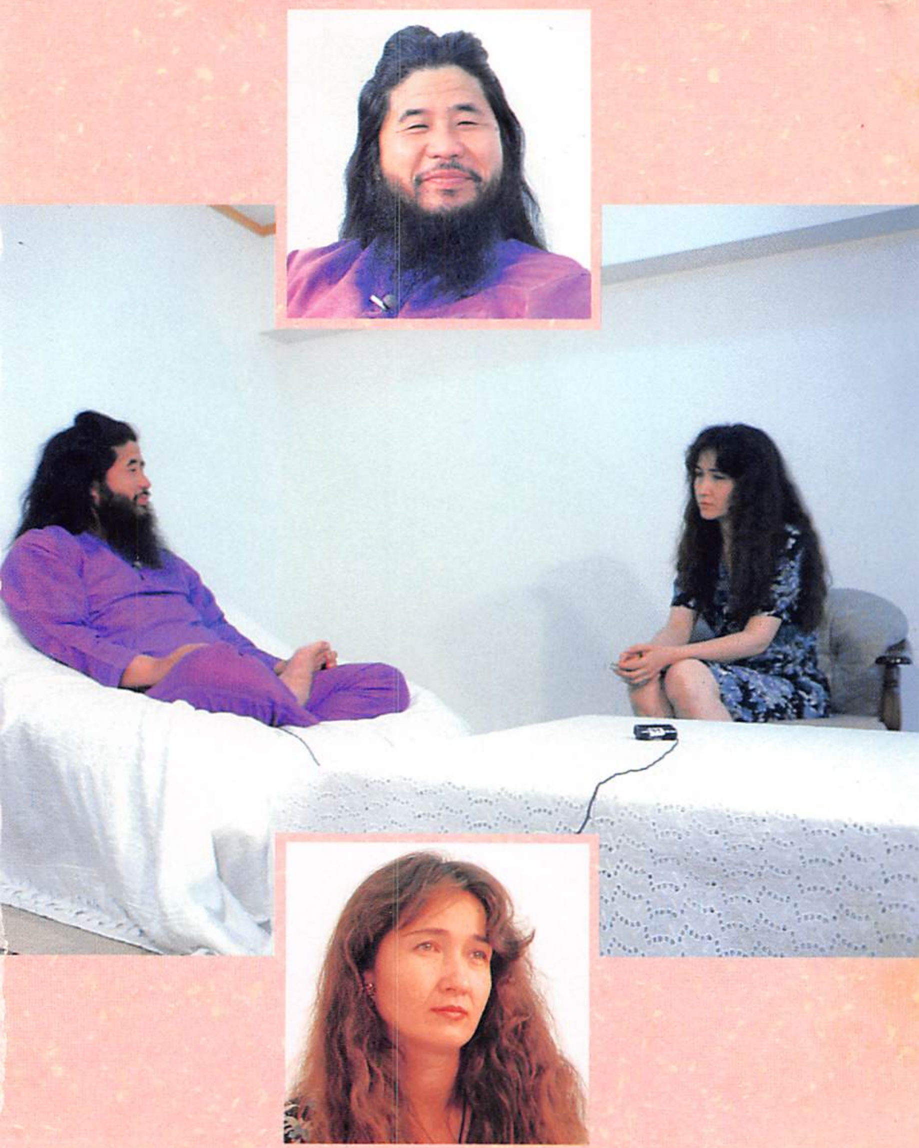


麻原彰晃の
世界PART2



尊師、麻原彰晃が斬る!

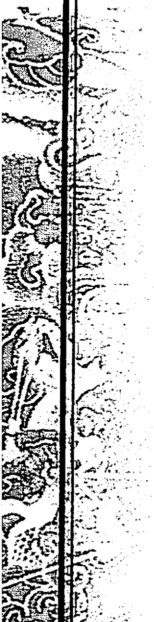




麻原彰晃の世界――❖PART・2

尊師、麻原彰晃が斬る！

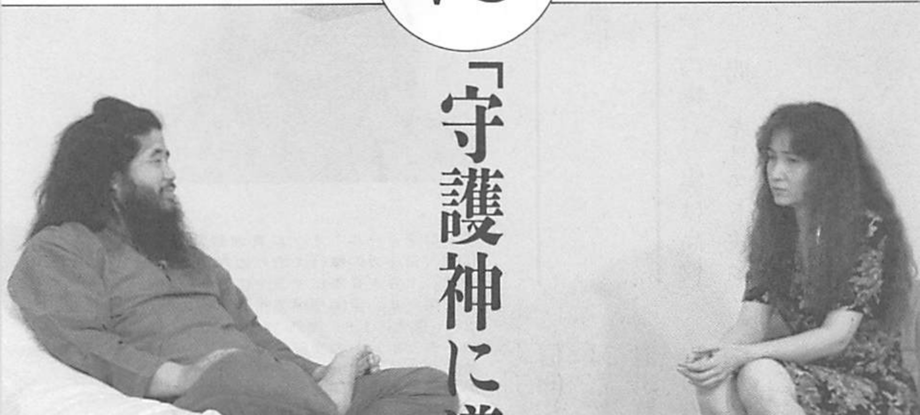
――目次――



巻頭特別幸福対談

Special Talk

麻原彰晃 VS 鹿島とも子



「守護神に導かれて——」

SHOKO ASAHARA　　TOMOKO KASHIMA



［プロフィール］オウム真理教開祖。仏教・ヨーガの修行に取り組むこと約８年。１９８６年ヒマラヤにて最終解脱を果たす。全国規模で布教活動を行ない、国内に１８、海外にも2つ（ニューヨーク、ボン）の支部を持つ。これまでに３００名以上の弟子を高いレベルのヨーガの成就に導く。その活動は宗教のみにとどまらず、文筆、音楽、科学、医学、教育、政治と多岐にわたる。８６年１月『週刊プレイボーイ』の記者に空中浮揚を公開。８８年５月空気を遮断されたボックス内での瞑想の究極状態「水中エアータイト・サマディ」に成功。８９年１０月弟子の１人が、長時間潜水状態を保つ「水中クンバカ」の世界新記録を達成。
８７年２月インド、ダラムサラにてチベットの最高指導者ダライ・ラマ法王と会談、以後親交を結ぶ。
９１年３月ダンス・オペレッタ「死と転生」開催。８月には本格的な仏典研究と瞑想によって明らかになった宇宙誕生のプロセスをアニメーション・音楽・舞踏を使って「創世期」として公開。

◉〝本物〟の確信

（鹿島）わたしの場合、実は高校生のときに三年間、キリスト教を信仰していたんです。そのわりには宗教アレルギーの部分があって、他宗教のきらびやかな建物とか教祖の方の豪華な格好とか、ああいうのがとても嫌だったんですね。

でもオウム真理教の場合、もう皆さんすごく質素というか、自然体というか、そういうところを見て「これは絶対に本物だ」というふうに確信しました。

（麻原）特に大好きな師[1]とか正悟[2]師はいらっしゃいますか？

（鹿島）最初にお会いした師がすごく話しやすかったんですね。ソーナー師だったんですが、本当に何



［プロフィール］
１９５０年千葉県木更津市に生まれる。６９年日劇ダンシングチーム入団。翌年、主役の座を射止め、以後、日劇の舞台と並行してテレビ、レコード、ミュージカル舞台で、歌って踊れるタレントとして活躍。一時は前田美波里や今陽子と〝ザ・レディース〟を結成してグループ活動も展開していた。また、テレビの音楽番組「サウンド・イン・Ｓ」では四年間に渡って準レギュラーを務め注目される。
１９８２年石打スキー場で事故に遭い脊髄損傷。「一生車椅子か松葉杖」と医師から宣告を受けたが、リハビリで克服して６年後の８８年８月には赤坂、コルドン・ブルーで奇跡の舞台復帰を果たす。事故から復帰までの苦労は『車椅子からの出発ち』（鹿島とも子著、鎌倉書房）にまとめられている。
現在は歌手として活躍中。この秋には１０月スタートのテレビ番組主題歌を収録したＣＤが発売される予定。二児の母。８９年５月オウム真理教入信。

(1)師――生命エネルギーのヨーガであるクンダリニー・ヨーガの成就者。正悟師に次いで高いステージの者に与えられる称号。
(2)正悟師――煩悩を止滅し、仏典でいう「供養値魂（阿羅漢）」の境地に達した者に与えられる称号。

でも相談できるという感じで。
でも、ときどき変わられちゃうのが残念なんですよ。ずーっと相談に乗ってもらっていて、突然異動があって「もう富士の総本部の方に行かれてしまった」ってなると、ちょっと寂しいんですけど(笑)。

(麻原) 申し訳ございません(笑)。とにかくオウム真理教は出家修行者の集団で、修行しなければ駄目なもんですから。

(鹿島) そうですね。それは教義について多少なりとも明るくなってきた今はよくわかるんですけど。ただ、悪いところとかザンゲしたりしてましたし、お話ししたいこと、お伺いしたいことがたくさんありましたからね。今は東京にいらっしゃるサクラー正悟師とかアーナンダ師にいろいろ相談に乗っていただいてますけど。

(麻原) どうですか? 例えば、ソーナー師、サクラー正悟師、アーナンダ師の印象は。

(鹿島) 何ていうのかしら、全部、

とにかく正直に話したくなってしまうというか……。ですから、時間見つけてザンゲしたいことがたくさんあるんですね。会う度にもう、すべてを話してしまいたくなるんです。

（麻原）それだけ、サクラー正悟師にしろ、ソーナー師にしろ、アーナンダ師にしてもステージ高いですからね。やはり、透明なんでしょうね。

◉自信がないのは、自分をよく知ってるから

（麻原）ところで、鹿島さんは、自分自身は成就して、どういうタイプの師になりたいですか？

（鹿島）わたしですか？　成就のことなんか全然考えていなかったので。

（麻原）でも、心の深い部分にはあるんじゃないですか。絶対成就して、自分自身を知りたいと。

（鹿島）よく道場で、信徒やサマ



ナの皆さんが鏡に向かって言ってらっしゃいますよね、「自分は絶対解脱するんだ」と。ときどきまねごとで、「自分はしたい」みたいなことを言ったりしますけど、でも、どこかで自分に自信がなくて……。おそらく自分の駄目な面を知ってるからでしょうね。

（麻原） いや、それはすごいことですね。というのは、まず、修行の一歩というのは〝証智（しょうち）〟なんです。つまり自分のいいところも悪いところも知ると。で、自分のその悪いところをよく知っているとするならば、しかもそれを本当に理解していらっしゃるみたいだからそれはすごい。第一歩は終わっていると。

次はそれをどう料理していくかと。普通の人は「自分はこうなん



だ」という虚像があって、それをまずはぎ取って自分のいいところと悪いところをはっきりと見極めた上で、次のステップとしていいところを伸ばし悪いところを切り落としていくわけですよ。もう知ってらっしゃるわけですから。やっぱりそれは一歩リードしてますよ、それは。

◉守護神に導かれて……

(鹿島) わたしがオウム真理教に入信したのは、話せば長くなりますが、一九八二年一月にスノーモービルの事故に遭いまして、脊髄損傷ということで手術したのがそもそものきっかけだったんですね。ダンスが踊れるメリットを生かしてショーにミュージカルに仕事の

可能性が広がっている時期だけに、悔やんで悔やみきれない事故でしたが、それで手術後にリハビリのためにいろんなことをやっていたんです。長い期間にわたって通っていたカイロプラクティックもその一つでした。

そこに体のことだけでなく精神面でも助けていただいた先生がいまして、その先生が三十六歳の若さで急にお亡くなりになったんですね。信頼していただけにすごくショックで、そのとき先生のためにお祈りしたんです。そしたら不思議なことに頭の中に「本屋に行きなさい」って言葉が突然、ひらめいたんですよ。その声に従ってその翌日、本屋に行って手にしたのが尊師のご著書だったんです。

その本を開いた瞬間、「ああ、これだ！」ってすぐにわかりました。本に載っていたマンダラの絵と全く同じものを、以前カイロプラクティックの先生に見せていただいていたんですよ。その先生はヨーガをやってたとかそういうこ

とではないんですが、死後の世界とかそういうことに興味を持っていらっしゃったんですね。わたしも「死んだらどうなるの？」っていつも疑問に思っていて、死後の世界とか幽体離脱の話をその先生から聞いたりとかして……。それはともかく、マンダラの絵が同じだったんですね。それで、「これは先生がそこに行きなさいと教えてくださっているに違いない」と確信して、すぐに電話して入信したわけです。

もっとも、それより以前にオウム真理教のチラシがポストに入っていて、そのときもチラシに載っていた尊師の顔写真がすごく印象に残っていたんですね。そのときは電話をするまでに至らなかったんですが……。

（麻原）それは大変貴重な体験ですね。その話をお聞きして、二つのことが真理の体系から理解できると思います。その第一がマンダラ、そして心の叫び、つまり直感的な声、これは聞く場合とそれか

らそう思う場合と両方あるわけですけれど、で、わたしの写真と。これは何を意味しているかというと、密教的な前生からの縁、そして動いた神はあなたの守護神だと考えるべきだと思います。

そういう状態の方というのは、例えばオウム真理教の中でもアーナンダ師などが経験していることですけれども、本当に修行し出すとすごく霊的になってくるんですね。それは前生と、そして今生の間にある壁が少しずつ取れ、前生のステージに到達し、今生はそこから積み上げるという形になるからですね。ですからその体験は大変素晴らしい体験だと。

それからもう一つは、信頼なさっ





ていた先生の死ということがきっかけであると。これも密教的、まあ、仏教的ということがいえますね。つまり自分の支えを失ったこともそうでしょうけど、もう一つ三十六歳の若さで亡くなられたということで、大変人間の生に対する無常みたいなものをお感じになったんじゃないですか。

（鹿島） はい、ショックでした。

でも、恥ずかしいことですが、そのときはまず真っ先に「自分はこれからどうしたらいいのだろう？」ということ考えてしまったんですね。で、そういうことを先生におわびしたかったし、死んで一体どこへ行ってしまうかわからなかったわけですから、それを強く知り

たいという気持ちが起きたことも確かです。

（麻原）ただ、その直感的、しかもマンダラの一致とか、そういうのを見ますと、ほんとに自然と鹿島さんの事故を含めて、修行しなければならない方向に、守っていらっしゃる守護神の方が導いてくださっているということがいえますね。

◉事故は人生の転換の示唆だった

（鹿島）守護神というのはだれにでも必ずいるんですか？

（麻原）それは大変難しい問題で、例えば神々を全く供養しない人の場合、神々が力を貸してくださるかというとそうではありません。ですから、それはあなたが前生においてグルに対して、それから守護神に対して、供養法の瞑想をなさっていたことを意味しているん

だと思います。だからそれは、だれでもいるわけではありません。

もう一つ、鹿島さんの人生の流れを見ていて感じることは、上りつめてそこで事故に遭った。これはやはり、ここでこれをしてはいけないんだという示唆だと思います。つまり、上りつめてそこで人生を転換するような大きな事故に遭ったと。これはこの道を上り続けてはいけないんだと。ここで安住してしまったら、人生生まれてきた目的がそこにあると錯覚してしまう。だからここに引っかかっちゃいけないんだということの示唆なわけですね。それは修行者には必ずそういう状態が起きるんです。

◉温かいお客さんに囲まれて――功徳が生活を変えた

(麻原) ところで鹿島さんの場合、修行を始めてからどのような変化がありましたか?

(鹿島) まず周りに来る人たちが変わってきたっていうのは確かな

③ オウム真理教教団機関誌



んです。わたし自身、一生懸命『マハーヤーナ』[③]とか読んで、皆さん平等だっていうことをいつも頭において、そういう心を持とうと努力しているんですね。ですから舞台でもお客さんの反応が以前とは全然違ってるんです。

この間も伊東のハトヤホテルで一カ月半ほど仕事をやったんですけど、温かくていいお客さんばかりなんですよね。以前だったら批判的に見ていたりそういうお客さんも目立ったりしてたんですけど、そういうのが全然なくなってきたというか……。

実は、昨日も強く感じたんですが、品川のパシフィックホテルで仕事があったんです。ラウンジで

五十分ぐらいのショーを二回やるんですけど、最初はお客さんが少ししか入ってなかったのが一曲終わるぐらいにもう全部いっぱいなんですよ。それがまた隅から隅まで温かいお客さんなんですね。すごく優しさを感じるし、やっぱり私生活よりもそういう舞台に出ているときに、修行を始めてからの変化というものを強く感じます。

（麻原） それはやはり功徳が少しずつ少しずつ蓄えられてきている証拠だと思うんですね。功徳が生じてくると次に現われるのは何かというと、自分の意志したように現象が動くんです。

特に鹿島さんの場合、おそらくいい歌をみんなに喜んでもらいた



い、そういう心があると思うんですね。で、そういう心がそういう結果をやはり招いていると思うんですね。

◉「尊師を思って歌うんです」

(鹿島) でもそれが徳を消耗しているというか、そういうことにならないんですか?

(麻原) それは心の問題で、本当にみんなに満足してほしいと、喜んでもらいたいという心を持てばそれは功徳になります。だから功徳は次の功徳を生むという、そういう形になってくると思います。

(鹿島) でも、いい歌ばかりではないんですよ。ジャズだとかロックだとか歌わなくてはいけないときもあるんで、それで「私が仕事をやっているってことは、皆さんに悪い影響与えているようなもんじゃないですか」ってソーナー師に相談したこともあったんです。そのときは「尊師をいつも思って仕事なされば大丈夫ですよ」って

おっしゃってくださって、仕事のときは必ずそういうふうに思ってやっているんですけれど。

（麻原）きっと、鹿島さんがわたしを思念してくださってるからわたしの歌がうまくなってきてるんじゃないかな（笑）。

（鹿島）そういえば、わたしの方も最近、仕事の種類が全然変わってきてるんです。この間も「滝廉太郎の生涯」みたいのをやって、『荒城の月』を歌ったんです。今までのわたしだったらジャズとかポピュラーとかそういうのが多かったので、そういう仕事が来るはずないんですね。それが毎年やることになって、四月に必ずどこかで『荒城の月』を歌うとか、その滝廉太郎をやることに決まったんです。喜んでもらえる歌の種類も変わってきてるということは、変わってきてるんですね。

（麻原）すべては心の現われですからね。まさに経典どおりですね。しかも早いですね、変化が。

◉カルマの返りが早いのは喜ぶべきこと

(鹿島) でも、その反面、私生活ではいろいろと試練があるんですよ。

(麻原) というよりも、今カルマの果報というか、結果が返ってきているだけであって、わたしはいいことだと思いますけれどね。で、それに対する考え方もしっかりしてらっしゃるから、必ずいずれ落ちますよ。

カルマの返り方が早いということは、やはり修行者としては誉め



られるべきだということでしょう。
つまり、カルマの返り方が遅ければ、今生たくさん悪業を積んで、それを来世のみやげとして地獄・動物・餓鬼へと堕ちてしまうと。
ところが、土台ができていると、今生、例えば、このカーリー・ユーガの時代に悪業を全く積まないで生きることはできないと。その場合、やはり、今生のカルマは今生で清算させられると。それによってカルマの清算が起きて、その後、真理の道と出会うとか、真理の道を歩き出すとかいうことになるわ



けですけど、その図式からいっても正しいと思う。

（鹿島）はい。

（麻原）ただね、一ついえることは、先ほどわたしが言ったこととと矛盾していないわけです。つまりどういうことかというと、もともと修行との縁があるから。ということは、上りつめた人にとっては、今度はその道を走る可能性があると。だからその、いつカルマが返ってくるのかと。例えば、上りつめなかったら、つまり途中だったら、単に挫折感しかないかもしれない。しかし、いったん、上りつめてしまった。もうここでいいだろうということで、ちょうどカルマが返ったんだと思います。

そこである程度のカルマの出る時期を早めたり、遅くしたりすることはシヴァ大神、あるいはグルというのはできるんですね、コントロールすることが。ですから確かに鹿島さんにとってはつらい出来事だったかもしれないけど、それで、結局精神的な生き方を少し

ずつ少しずつ模索なさって、そして、より精神的な生き方ができになるとしたならば、払った代償はそれほど高くないと思いますね。
　でないと、今もそうかもしれないけど、ずっとそのきらびやかな生活を続けなければならない。
（鹿島）そうですね。
（麻原）しかしそれにはやはり、地位を維持するための苦しみもあるだろうし、それから、内側を見つめる時間だってないだろうし――だと思いますね。

◉他の雑誌を見るのが嫌なくらい『マハーヤーナ』が大好き

（鹿島）今日一応持ってきたんですけど、わたしの場合、ノートに自分の変化を書いてるんですね、今年の一月からずっと。最初の部分に尊師のお写真を貼ったりして。自分の体のこともありますけど、書くとなんか励みになるというか、「あっ、全然やってない」ということもわかりますしね。反省する材料になるので一応書いて進める

ようにしているんですよ。

（麻原）それはいいことですね。

（鹿島）もう他の雑誌を一切見るのが嫌なくらい『マハーヤーナ』が大好きで、何回も読むようにしているんです。でも、まだ教学中に眠くなってしまったりとかするんですね。そのへんは徐々に反省しながらやっていこうと思ってます。

（麻原）でも、すごいですね。他の雑誌が嫌になるぐらいに一生懸命お読みになるということは、ほんとに四預流支の記憶修習、それからグルを観想なさるということも、完全な第一の段階を通過して、第二段階の記憶修習、第三の考える、第四の実践、これを踏まえてなさってらっしゃることはすごいと思いますね。あとはできるだけその時間を増やしていって浄化を進めていかれたら、本当に最高の人生と最高の来世が約束されるんじゃないですかね。

◉オウム一色の生活

（鹿島）結局、家にいると例えばビデオを見るのが好きだったりとか。本からは離れられたんですけれど、まだ離れられないことがたくさんあるんですね。そういうものから離れるのって、ほんと大変なことですね。

（麻原）離れていくというよりも、そのものの実態がわかってくれば必要なものは見るし、必要でないものは見なくて済むというようになってくるはずです。

もともと集中力おありになるから、結果が出るのは早いでしょう。

（鹿島）集中力ありますか？ 全然ないと思ってるんですけど。

（麻原）集中というのは二つの考え方があるんですね。その第一の考え方というのは一つの動き、例えば、音楽とか言葉とかに集中し続けると。これは第一の集中です。そうじゃなくて、自分のイメージしているものに自分を合わせてい

く、おそらくこのときには、ある意味で空っぽの修習だとか、これをこうしなきゃいけないだとか、歌っているときも音楽の流れに自分を組み込むとか、そういう体験をしてらっしゃると思うけど、これは第二の集中なんですね。

で、第一の集中より第二の集中の方がレベルが高いですね。ですからそういう意味においては集中力があるんですね。ただ、まあその第二の集中から次は第三の集中、





第四の集中、第五の集中と変わるわけですね。

（鹿島） そういうのは、自然と修行を続けていればついていくものですか。

（麻原） ええ、それも自然とついてきますし、それだけではなくオウム真理教の修行というのは、結局自分の持っている五つの経験をね、神々に変えていくということが狙いなわけです。だから例えば人間の世界と動物の世界と神の世

界があったとして、動物的な行為を修習して繰り返し繰り返し行なっていれば、当然、来世は動物で生まれ変わるでしょう。逆にそうではなくて神の行為と同じことを行なえば天の世界へ生まれるだろうし、あるいは人間の、ほんとに人間のなすことを繰り返し繰り返し行なっていれば人間界へ転生する。同じように、それは感覚についても、それからイメージについても、意志についても、識別についてもいえるわけですけど。

ですから集中力をつけることだけではなくて、実践なさってらっしゃる経典を読むと。それに基づいて自分の人生について考えるということを繰り返し繰り返しなされば、もっと大きな利益があると思いますね。しかし、印象として本当にオウム一色の生活って感じですね。

（鹿島）とにかく今修行をやらなくちゃいけないとは思っているんですけど、心の中では、だけど半分やっぱり、悪い心が邪魔をして

というか。

（麻原）でも、悪い心がなければもう修行する必要ないでしょう。

（鹿島）はい、今日尊師にお会いできたんでまた明日から頑張ります。

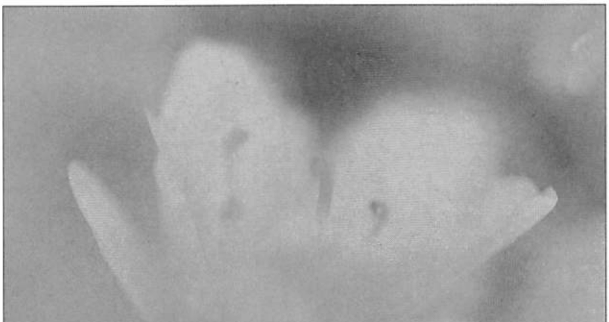
（麻原）そうですね。頑張りましょうね。



尊師、麻原彰晃が斬る！

願望成就の秘法を解く！

「四つの如意の基礎が与える本当の幸福」



FULFILLMENT　OF　WISHES

◉真理とは科学である

ある地方に、津波がしょっちゅう襲ってくるとしよう。この津波に対して堤防を築くこと、これは災害を招かないための最良の方法である。同じように、例えばある人が事業を営んでいて、大変受注が多いと。そして設備もそろっていると。そのような状態のとき、従業員が少なければ、良質の従業員を大量に入社させる。これは事業を発展させるための道である。

なぜ、わたしがこういう比喩から今日の説法を入ったかというと、真理とは科学なのだということである。つまり、現実の生活、あるいは現実を超えた生活に対してどのようにアプローチをするならば、本当に幸福になれるかと。あるいは、どのようなアプローチをするならば、その問題が解決できるかと。これが真理なのである。

例えば、真理の基本的なものとして、「四つの如意足（にょいそく）」、「二正勤二正（にしょうごんにしょう）

断」、「五根五力」、あるいは「八正道」、「七覚支」、「四念処」といったようなものがある。この一つ一つは、それぞれ目的があり、その目的に応じた形で、何をなせばいいのかということを、仏陀釈迦牟尼が、いにしえの聖者と同じようにお説きになった法なのである。

◉四念処、真実の〝わたし〟を根本として

例えば、例を挙げるならば「四念処」。「我が身これ不浄なり」と。これは、サマナが、つまり出家した修行者が、身に頓着しないと。あるいは、異性に頓着しないための法であると。不浄なるものに対して、なぜ頓着するんだという考え方が、そこにはある。

「受は苦なり」と。これは、感覚というものの要素が、例えば快楽と苦しみとが表裏であると。つまり、快楽に対して強い感覚を持つ人は、苦し

みに対しても強い感覚を持つんだということ。よって、この感覚から離れるべきであるという考え方。

「心は無常である」と。自己の心もそうだし、他人の心もそうだけども、心というものは絶えず変化し、よって、心を依り所にするべきではないと。もっと心の奥深くにある我所、真我に対して確信を持つべきであると。この心は無常なり、心は無常なりという法に熟達すると、例えば他に裏切られたとしても、欺かれたとしても、それに対して全く心を動揺するようなことはない。

「法は無我なり」と。これは、観念は無我であると。つまり、社会通念に流されていると、真実が見えなくなり、それによって法の落伍者となり、そして来世、悪趣へと転落すると。よって、一般通念ではなく、あくまでも経典にのっとり、真理にのっとり現象を分析し、自分の道を誤らせない

と。これが、「法は無我なり」なのである。

◉四つの如意足、思いのままに生きるために

今日の本題は〝四念処を説く〟ということが本題ではない。これはあくまでも、七科三十七道品が目的に応じて形成されたものであり、そしてその中の、特に「四つの如意足」が、皆さんを幸福へと導く法であるということをお話ししたいがためのアプローチである。

この如意足というのは何かというと、意のままに、この現実の生活を生きる。あるいは、意のままに修行も含めて目的を達成するということが、この如意足という意味である。

では、この如意足には何があるのかというと、まず「決意の如意足」、第二番目には「精進の如意足」、第三番目は「思念の如意足」、第四番目は

「観慧の如意足」である。

この「決意」というのは、わたしはこれこれをこうしますよという決意だね。「精進」というのは、要するに「二正勤二正断」のことであると。つまり、不善法を離れ、善法を増大させるということであると。そして、「思念」とは、繰り返し繰り返し一つのことを思い続けると。「観慧」というのは、要するに、観察の観に、智慧の慧だけども、現象を正確に見つめ、それを智慧によって解き明かすと。この四つが、四如意足なのである。

◉どんな人でも解脱へと向かう

では、この四如意足を使って、例えば解脱に対して、例えば受験に対して、例えば恋愛に対して考えてみよう。

まず解脱に対して。「わたしは解脱をしたい、わたしは解脱をしたい、

わたしは解脱をするぞ、わたしは解脱をするぞ」と思念する。これが決意如意足である。この決意如意足を十万回、あるいは二十万回、あるいは百万回と唱えるうちに、その人の心は、解脱を絶対しなきゃいけないんだという確信が出てくる。これが第一の如意足である。

では次に、「解脱をするための条件は何か」と。「自分はどうも布施功徳、あるいは奉仕ができてないから、その奉仕をもっと増大させるぞ」と。あるいは、「布施を増大させるぞ」と。これが精進如意足の「勤(ごん)」、つまり努力をする如意足なのである。そして、精進如意足の「断(だん)」は、例えば十戒の中の、「自分自身はどうも小さな生き物を殺す」と。あるいは、「邪淫(じゃいん)をなすことによってエネルギーを漏らす」と。よって、「まず殺生はしなくても済むから、これをやめよう」と。そして邪淫についても、少しずつ、少しずつやめ、「これから三カ月後、あるいは六カ月後に、完全にシャッ

ト・アウトするぞ」と。これを思念し、努力し続けると。これが二番目の精進如意足である。

では、三番目の思念如意足とは何かと。「わたしは、オウム真理教の信徒である」と。そして、「わたしは今、布施の実践、それから戒律の順守を徹底し出した」と。「これだけの土台があるんだから、わたしは必ず解脱へと向かうはずである」と。よって、「わたしは解脱ができる、わたしは解脱ができる、わたしは解脱ができる」と思念すると。これが三番目の思念如意足である。

では、四番目の観慧の如意足とは何かと。「では、そのためには、どのようにしたらいいだろうか」と。例えば、「わたしは在家で解脱をするのか、あるいは出家で解脱をするのか。例えば、在家で解脱をする場合、当然最終段階では、極厳修行の長きにわたっての修行があるだろうから、そ

れまでにお布施を蓄えよう」と。あるいは、出家の場合、「わたしはどうもまだ教学が入ってないから、ひたすら記憶修習しよう」と。そして、出家しても、いろんな煩悩が出ないように自己をチェックしようと考え、分析し、そして達成すると。これが、観慧の如意足である。

つまり、この四つの如意足を実行し続けるということは、いかなる人でも、その目的、解脱に対して近付くわけである。

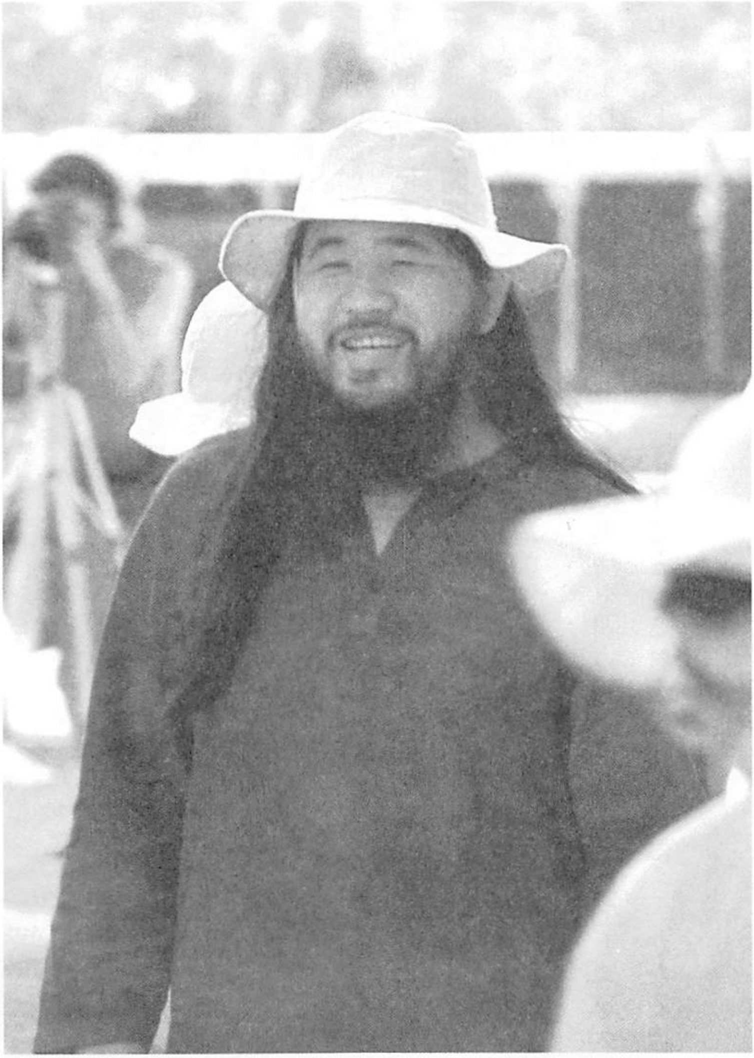
◉学力アップも当然のこと

では次に、これを受験、あるいは学力アップに向けたらどうなるのかという検討に入ろう。まず、受験にしろ学力アップにしろ、「よし、今日から自分は努力をしよう」と。「とにかく、自分の目的の大学、あるいは高校、あるいは成績、例えば数学を十点上げるとか、二十点上げるとかね、

いうことに対して、決意を表明する」と。そして、それを同じように、五万回、十万回と唱え続けると。例えば、「数学が十点上がりますように、数学が十点上がりますように」と。「数学を十点上げます」と、「数学を十点上げます」と。ね。

そして、例えば二番目の精進如意足においては、その中の勤と断に分けると。そして、勤については、例えば今まで二時間勉強していると。これを三時間に増やすと。あるいは、一日二ページ問題集を進めていたのを三ページに増やすと。これが、勤の如意足になると。では、断の如意足とは何かというと、例えば今まで睡眠を八時間取っていたのを六時間に減らそうと。あるいは、暗性食をとっていたのを、暗性食をやめようと。これが、断の如意足になると。

そして、次は思念如意足である。「自分は今までよりも、例えば三十パー



セント・アップの勉強をしているんだから、成績は上がって当然である」と。あるいは、「これこれの勉強をこれだけやっているのだから、自分は受験へ通って当然である」と。「受験を通過して当然である」と。このように思念し続けると。これを、三万回、五万回、十万回と行なうと。

そして最後の段階で、対象となる学問、例えば数学、あるいは受験に対して分析を加えると。例えば、「わたしの欠点は幾何にあると。例えば、三角関数、例えば積分でも回転体に対してちょっと弱いと。ということは、そのどこが問題なのかと。公式の記憶ができてないのかと。あるいは、計算ミスなのか」と。そこらへんを十分に検討し、そしてそれを取り除くと。これが観慧の如意足である。

つまり、この一、二、三において土台を固め、四番目でそれをチェックし、そして分析し、検討し、改正すると。これをなすならば、いかなる自

己の欠点があったとしても、それを乗り越えることができるはずである。

◉恋愛の場合

では、恋愛についてはどうかと。例えばここに、二十二歳の男性がいたとして、二十五歳までに素敵な恋人と結婚したいと。しかし、今は恋人がいないとしようと。「よし、自分は二十五歳になるまでに結婚する」と。「素敵な人と結婚する」と。それを決意すると。これを五万回、十万回と行なうと。

そして、そのためには条件を分析すると。例えば、女性の好むタイプというのは、まず身綺麗であること、そして優しいこと、お金があること。ちょっとね、あの、下賤な話になったけれども。このような、まあ、あるいは家柄がいいことといろいろあるだろうけども、その中で、どうしよう

もない、例えば、家柄とか、ね、あるいはハンサムとかいうのはどうしようもないと。ただ、身綺麗で、優しくて、まあある程度のお金を持つことはできるだろうと。その努力をすると。そして、自分の欠点である、例えばお酒を飲んだら性格が変わるだとか、あるいは無責任だとか、そういう部分を断ずると。

そして、この一、二を通過した段階で、三番目の思念に入ると。「わたしはこれだけの努力をしているのだから、必ずや、素敵な人と巡り合い、結婚できる」と。それを思念すると。これをやはり、三万回、五万回と思念すると。

そして、最後に対象を絞ると。自分の周りを見渡し、この人は性格も良さそうだし、そして自分とはピッタリであると。この人のまず、好みの色は何であろうかと。あるいは、この人はどういう趣味を持っているのだろ

うかと。あるいは、どういうタイプの男性を好むのだろうかと。それを調査し、そして分析し、検討し、そのタイプに合わせると。

◉この世を意のままに運んでくれる素晴らしい乗り物

これが如意足である。つまり、如意足というのは神秘的なものではないということだね。要するに科学なのである。そして、これらの如意足を自己のものに完全にするならば、この世を意のままに運んでくれる、素晴らしい乗り物を手に入れたことになる。

しかも、仏教の中で、この四つの如意足というのは、ほんの土台の、ほんの一部であるということをここで付け加えておきたい。

◉四預流支にすべてが内在されている

では、それらのすべての法は、何に内在されているのだろうか。それは、「四つの預流支」である。

つまり、三宝に対する帰依。これはグル、そして、まあ、ここでいうグルというのは、シヴァ大神の化身であるグル、あるいは諸々の仏陀のすべての徳を備えたグルという意味になるわけだけども。

次に、真理。この真理というのは、今言った四つの如意足、あるいは四念処だけではなく、多くの法。例えば、十波羅蜜だとか、あるいは七覚支だとか、いろんな法を含んでいる真理。

そして、サンガ。オウム真理教では、これは教団に当たります。つまり、真理を実践し、神秘的なパワーを有している。あるいは、自分たちよりも清浄である、真理を実践している者。これに対して帰依をすること。

二番目は、多くの説法、あるいは多くの経典を読み、記憶修習し、それを自己のものにしてしまうということ。

三番目は、その記憶修習したものをもとに、自分自身を検討し、そして自己を改善するように思念すると。

四番目は、検討したものを実際の行動に移すと。つまり、わたしの身の行ないについて、布施はできたのだろうかと。奉仕はできてるのだろうかと。あるいは、殺生を離れているのだろうかと。偸盗を離れているのだろうかと。邪淫を離れているのだろうかと。あるいは、口の行ないについては、妄語・綺語・悪口・両舌という四つの口のカルマはどうなっているのだろうかと。きちんと、それが達成されているのだろうかと。あるいは、心においては、貪り・嫌悪・無智といったものから離れているのだろうかと。法にかなった生活をしているのだろうかと。真理にかなった生活をし

ているのだろうかと。こう考え、実践すること。

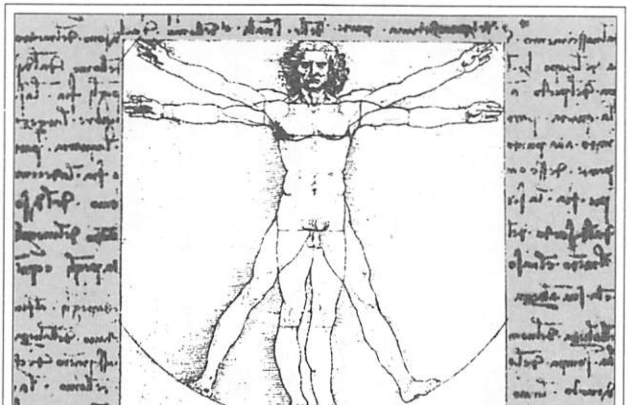
この四つの預流支の中に、すべての法、つまり八正道、七覚支、五根五力、あるいは十波羅蜜、その他の諸々の真理が含まれているわけです。

例えば、今日の法を聴き、「よし、自分の今の人生の目標はこうである。よって、自分は四如意足の実践をしよう」と考える。あるいは、「自分は出家希望だから、今から四念処の実践をしよう」と考える人は、大変優れた修行者としての素質を持っている方だと思います。

尊師、麻原彰晃が斬る！

医学を語る！

「西洋＆東洋医学を超えた医学理論」



NEW　MEDICINE

◉ヒポクラテス的分類

今日は、「病は癒える」ということだから、病についてのね、一応オウムの医学理論について話したいと思います。

まず、西洋医学の祖といわれているヒポクラテスは、四つの体質というものを提示しました。この西洋医学というのは、今使われている医学の祖だね。そのヒポクラテスは、四つの体質というものを提示したと。それは何かというと、まず多血体質であると。これは血が多いと書くんだけども。それから、次には粘液体質であると。そして、胆汁体質であると。それから、黒胆汁体質であるという四つの体質を提示したわけだね。

で、この、例えば多血体質っていうのはどういう性質かというと、要するに人付き合いが良くて、すごく飽きっぽいというような体質であると。例えば粘液体質とはどういう体質かというと、ものをじっくり考えると。

しかし決断力が鈍いと。じゃあ、例えば胆汁体質はどうかというと、動きは速いんだけどものを考えないと。しかし、しかも怒りっぽいと。そして、黒胆汁体質というのはどうかというと、小さなことがすごく気になってね、ま、例えば頭痛とかそういう症状を起こしやすいと。

◉東洋医学では

それで、例えば東洋医学にも同じように、体質分類というのがあるわけだね。これはどういうことかというと、まあ、六淫（ろくいん）といって、ね、例えば、今の四体質とダブッているわけだけども、胆汁体質とか、あるいは風（ふう）体質とかね、あるいは湿体質とか、あるいは火（か）性（しょう）体質とかね、あるいはまあ、熱（ねっ）性（しょう）体質とか、あるいは寒（かん）性（しょう）体質とかいうね、こういう形で体質を分類するわけだ。

これは何かというと、例えば胆汁体質っていうのは、先程と同じようにちょっと怒りっぽい性格であると。で、例えば湿体質ね――まあ粘液体質ともいうんだけども――とはどういうことかというと体にすごくむくみを生じさせやすくて、しかも先程言ったとおりちょっと性質的には沈みがちであると。そして、風体質とは何かというと、要するに痛みね、痛みの病が中心であると。で、熱体質とは何かというと、要するに普通の人に比べて、ね、例えば炎症性のものが起きやすいと。火体質とは何かというと、これはその炎症が化膿してね、膿むようなね、そういう体質であると。

まあ、こういう例えば分類を中国医学ではやっているわけだね。これは俗にいうところの、中医学とか、あるいは東洋医学といわれているものです。

◉画期的なオウムの医学理論を紹介

　では同じように、ヨーガはどう考えているんだろうかというならば、これについては一応三体質とそれから四大エレメントの理論っていうのがあるわけだね。これは何かというと、まず胆汁、それから風、それから湿というね、粘液というね、この三つの調和によってわたしたちの体は構成されていると。そしてこのバランスが狂うと、わたしたちは病に陥るんだという考え方なんだね。

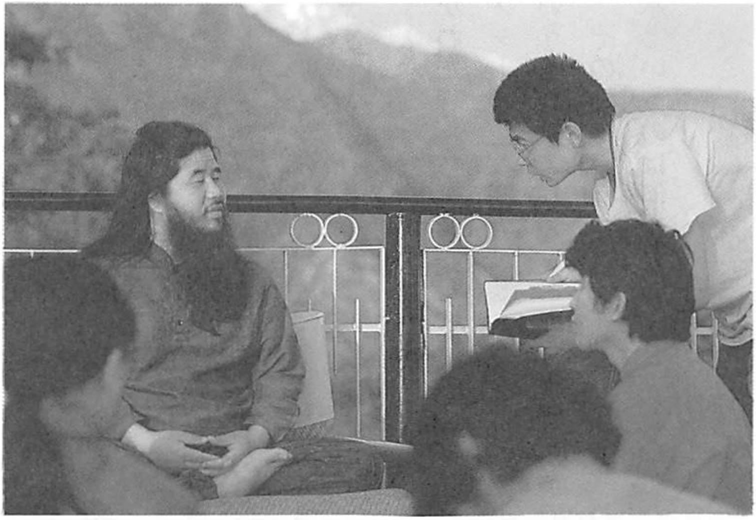
◉三つの体質で病を見きわめる

　じゃあ、風とは何かといったら、これはエネルギーであると。湿とは何かといったら、これはわたしたちの体液だね、要するに。例えば、鼻汁とか、あるいは気管支などに詰まっているドロッとした液体なんだけども、

これを粘液といっていると。そして、もう一つは風（ふう）、それから胆汁だね。胆汁というのは、これはもう本当に胆嚢から出る胆汁とお考えになってよろしいと。まあ、これもね、黄色い胆汁、あるいは緑色の胆汁、ね、あるいはそれがミックスされたような色とかいろいろあるわけだけども、この三つのね、その状態によってその人の体質を見極めるという考え方があるわけだね。

だから、例えば、風の、ね、障害のある人はどういう状態が起きるかというと、そのエネルギーが止まっているところに、例えば張ったような感じがあると。あるいは、エネルギーの流れが悪ければそこに痛みが生じると、ね。こういうものが結局風の体質であると。

じゃあ粘液の体質というのはどういう体質かというと、例えば喘息ですごくね、ドロッとしたものが出るとか、あるいは、そうだね、むくみね、



例えば。むくみがそうであるとか。あるいは、例えば蓄膿症ね、こういうものも一応粘液の体質であると。

では胆汁体質とはどうかというと、もうこの胆汁体質というのは西洋医学も、あるいはインド医学も、あるいは東洋医学も同じなんだけども、まず性質的には怒りっぽいと。そしてすごく熱を生じやすいというね。炎症性の疾患にかかりやすいということだね。

◉四大エレメントがわたしたちを形作っている

これと四大エレメントの色、四大エレメントというのは何かというと、地・水・火・風という四つのエレメントをヨーガ医学ではね、重要視しているわけだけども、その地というのは何かというと、わたしたちのこの肉であると。そして水というのは何かというと、わたしたちの血液、あるい

はリンパ液とかいうね、あるいはまあ精液もそうだね、こういう液体成分であると。

では火とは何かというと、これは要するに熱であると。わたしたちの体温を保持している熱であると。

そして風というのは何かというと、先程言った生命エネルギーであると。わたしたちを生かしているプラーナ——まあプラーナといっているわけだけど——このプラーナであると。生命エネルギーであると。

それで、この四大エレメントのどの部分の病なのかと。そして先程言った三つの粘液・胆汁・風というこの三つのね、バランスがどのようになっているのかと。何が多くて何が少ないのかということをね、見極めて治療すると。これがまあ一応、古代ヨーガの医学であるとお考えになってよろしいと思います。

◉宇宙の構成と人間——根本治療のために

そしてね、それに付け加えるならば、この宇宙というものはコーザル、アストラル、そしてこの現象界ね、グロスといわれているわけだけど、この三つの世界で構成されています。

そして、このグロスの世界は熱が優位であると。それからアストラルの世界ね、これはヴァイブレーション、振動、音が優位であると。そして、コーザルは光が優位であるといわれていますと、ね。

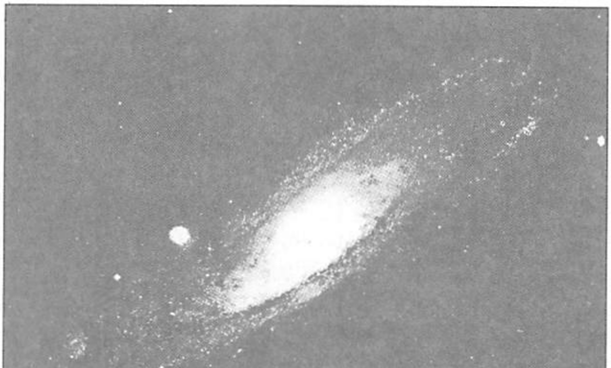
で、例えば現代の医学というものは、一応そのグロスの、この現象界だけをいじっていると。だから、例えばいったん治ったかに見えるものでも、ね、結局はまた再発してしまう。ところが、今オウムの医学を研究しているチームは、それに対してね、アストラルとコーザルをいかにしていじっていくかと。いかにトリートするかということをね、考えているわけだ。

もしわたしたちがアストラル、あるいはコーザルのデータをきちんといじることができるようになったならば、この世の病というものは、ね、根本的に治癒できるようなね、方向でいけるのではないかと考えています。

尊師、麻原彰晃が斬る！

UFO＆宇宙人の謎を明かす！

「煩悩からの解放──高い世界への飛翔の条件」



LIBERATION FROM AFFLICTION

◉ＵＦＯの続出――地球外生命体の脅威

それでは、今日の話に入ります。まず、わたしは以前、宇宙人というのはどういうものかという話をしたときに、いや、それは阿修羅かもしれないし、天界かもしれないと。まあ、とにかく人間界より、上の魂だよという話をしたことがあります。で、近頃出ている本の中に、その宇宙人らしき人――人と言っていいのかね――が現われて、そして、その人たちの食事の取り方が、膚にいろいろな養分を塗り付けて、その養分を取るんだという話が載っているというのを聞いたとき、まさに仏典どおりであるとわたしは感じました。

それはどういうことかというと、高い世界へ行けば行くほど、地元素から水元素、水元素から火元素、火元素から風元素というふうに変化していく。そして、天の食べ物はプラーナである。これは、釈迦牟尼の経典、

『南伝大蔵経』にももちろん載っていますし、それ以外の経典にも載っている。それで、プラーナの吸収は皮膚から行なうと。ということは、異生命体、つまり宇宙人は、わたしが言っていたとおり阿修羅かもしれない。

それからもう一つは、人間をスープにして、それを食べるという話だそうだから、まあ、おそらく人間が動物を食べているのと同じような感覚で行なっているんだろう。ということは、わたしたち人間、今の地球人類にとってはあまり利益のない上の魂かもしれないなというのがわたしの見解です。

で、なぜわたしがこういう話を初めに持ってきたかというと、近頃、テレビ、あるいは雑誌を見て気付いている方もいるかもしれないが、宇宙船が出だしている。ＵＦＯが出だしている。で、このＵＦＯそのものが、わたしたちにとって利益なのか、あるいは不利益なのかということは、要す

るにこれからのハルマゲドンに向かって突入していく場合、最も大きなポイントの一つになろう。
というのはどういうことかというと、彼らの持っている科学力というものは、今のこの地球人類が持っている科学力を越えている。そして、わたしたちが自分たちを守るためには、その今の地球規模の科学力ではなく、それを越えた科学力に対応して、自己を守り、そして修行を進めていかなくてはならないという原則があるということだ。

◉魂の未来のために正しい選択を

そしてわたしたちは、そのUFOの話を含めて、多くの情報に左右され、そして生きるということの本質的な意味合いを理解させられなくなっている。わたしは、人が死ぬ、あるいは生きるということは、どうでもいいと

考えています。どうでもいいと考えているとはどういうことかというと、人間は必ず一回は死ななければならない。そして、大切なことは、その死に際して納得できる死に方ができるかなと。つまり、この現象界において、この人間の世界において生きているのと同じように、自由にその死をコントロールして、そして次の世界に行けたならば、例えばいつ死のうとも、それは大した問題ではない。

しかし、そうではなくて、例えば操縦不能の車に乗って、その車が猛スピードで突っ走っているのと同じように、そしていずれそれがぶつかり、自分自身が死ななくてはならないのと同じように、その死の瞬間から操縦不能となり、そして死を迎えなければならないとするならば、その魂は大変哀れな末路を選ばなければならないだろうといえると思います。

もともと修行の意味合いというものは、見える人にとっては、最も大切

なこの世の目的の一つであると言い切れるでしょう。いや、言い方を換えれば、この短い人生のすべてであると言ってもいいかもしれない。しかし、見えない人にとっては、大きな賭け、大きな保険であるといえるでしょう。

もし、死後の世界が存在しないとするならば、毎日毎日を修行に没頭し、使うということは——まあ、もちろん修行がある程度進めば、心が明るくなり、いろいろな体験が始まるから、それはそれでメリットがあるわけだけれど——体験のない人にとっては、本当に無意味な、かけ捨ての保険と同じような感覚で扱われなければならないんだろうなと思います。もしその保険をかけなければ、確かにこの現世的な下位のチャクラを使った煩悩的な生き方ができて、そのときは瞬間瞬間、刹那刹那の喜びに浸ることはできるかもしれないが、あくまでもそれだけである。そして、それ以上の喜びはないということになるでしょう。そして、その人は死の瞬間を迎え、

そのときに後悔をしなければならない。なぜ後悔をしなければならないかというと、先程言ったとおり、コントロール不能の車に自分自身を乗せているような状態だからである。

◉五蘊の制約からの解放

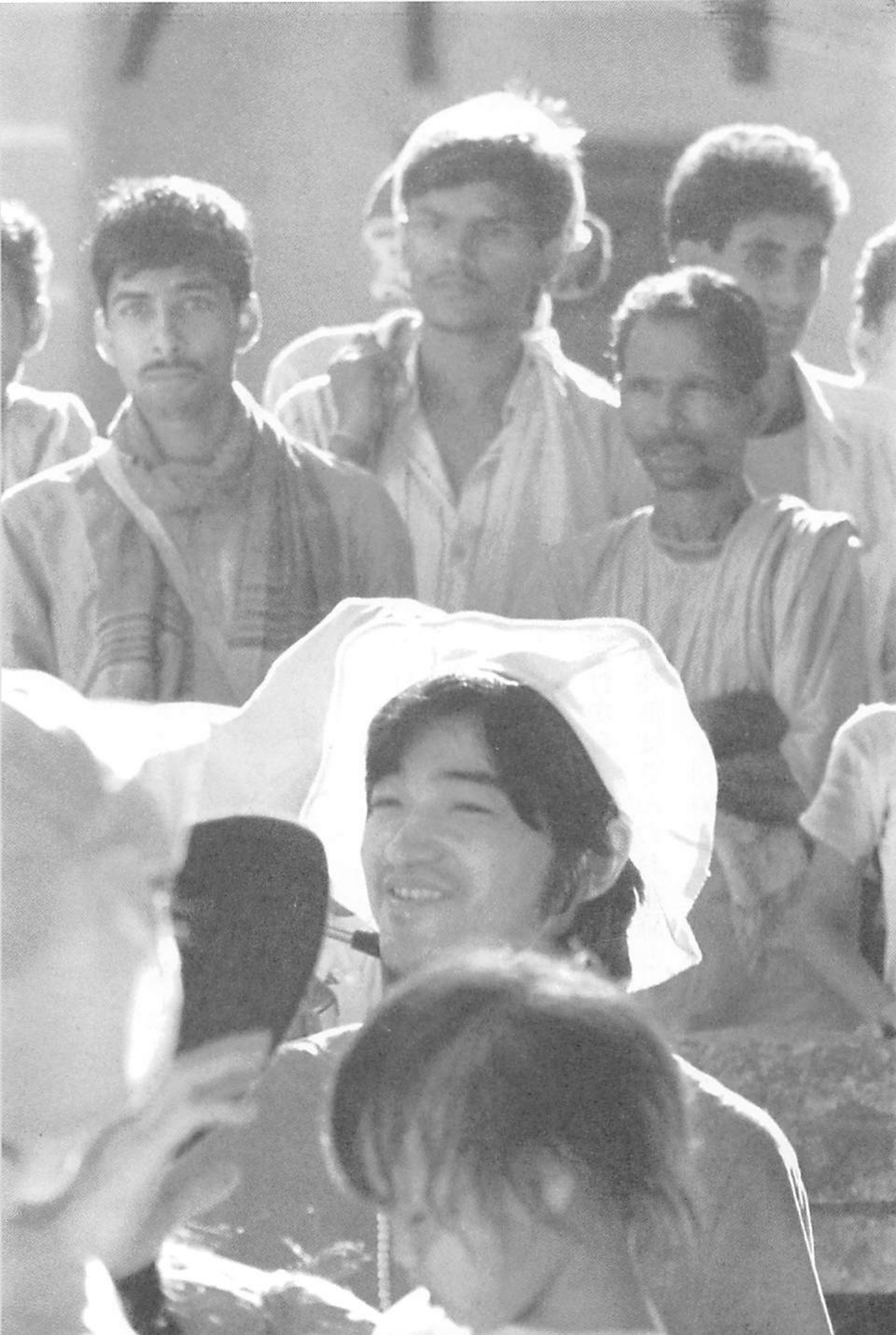
この色と空は同一である。あるいは、現象界と、それからバルドーの状態は同一であるとよくいわれます。この色と空、あるいは現象界とバルドーの同一点は何かというと、わたしたちの五感に対する影響、あるいは五蘊に対する影響が同一であるといわざるを得ない。

例えば、性欲のヴィジョンを見、例えば性欲のビデオを見、例えば性欲のマンガを見、性欲に翻弄されると。これは、この現象界も、あるいは中間状態も同じである。例えば、おいしい匂いをかぎ、そのかいだ匂いによっ

て心が動かされると。これも、現象界も、それからバルドー状態も同じである。
　そして、こういうものから逸脱していくこと、こういうものの影響を受けなくしていくことこそわたしたちの修行の狙いであり、本当の意味での自由だと経典ではいっています。つまり、絶対的自由とは何かといったら、わたしたちが、こういうわたしたちを動かす要素に対して全く影響されない状態を作り上げていくことである。そして、仏教的な言葉を使うならば、それを「捨（しゃ）」、捨てるといっています。何を捨てるのかといったら、わたしたちの心を迷妄に引きずり込むその煩悩に対して、その煩悩を捨てると。煩悩から離れるということ。そして、それができた段階で、わたしたちは本当の意味で自由で幸福な人生を歩くことができるといえます。
　それは、ちょうどこのようなたとえに表現することができるでしょう。

例えば、オウム真理教くらいの大きさになると、「お金を貸してください」と言ったら、当然銀行その他が貸してくれるだろう。そして、借りれば、例えば多くの道場を建てることができるだろうし、もっと大きなイベントを打つことができるだろう。しかし、オウム真理教は一切借金をしていない。

それはなぜかというと、結局、銀行から借り入れをして借りたということは、その銀行のコントロール下に置かれるということになる。つまり、オウム真理教が行きたいと思わない方向に歩いていかなければならない。あるいは、銀行に金を返すために、いろいろな意味での宗教的不合理を生じさせなければばらない。よって、銀行から一円のお金も借りていない。銀行からお金を借りていなければ、当然信徒さんのお布施というものが土台としてあって、それ以上のことはできないけれども、少なくともその範囲





内においては自由である。たとえ救済活動に使い、そしてそれが失敗したとしても、それは影響を受けないということになる。

つまり、これと同じように、もしわたしたちが感覚の奴隷になったならば、あるいは感覚以外のイメージの奴隷、あるいは観念の奴隷になったならば、その制約を受け、この欲界、色界、無色界に生まれ変わるんだよ。そして、それから離脱することこそ、わたしたちの本当の目的である。そして、離脱したとき、わたしたちは本当の意味での自由・幸福・歓喜を得ることができる。それを達成することこそが、わたしたちの目的なんだよと。それこそが、わたしたちの本当の幸福なんだよと。そしてそれを与えること、それがわたしの役割であり、大師の役割なんだよということがいえると思います。

◉今も変わらない仏陀釈迦牟尼の真理

修行には、三段階のステップがある。その第一は何かというと、まず、信があるかないかわからないが、とにかく縁によって信徒となっている状態。次は、それから少しずつ、大師、あるいはわたしと縁が深くなり、修行が進んできて、熱心な信徒の場合。そして、シャモン入りをし、解脱を目指す状態の、まず三つのパートに分けることができると思います。

そして、信があるかどうかわからないけれども、とにかくまずオウム真理教に入ったというのは、この三道――つまり地獄・餓鬼・動物――から離脱する切符を買った状態であるといえるでしょう。次に、信徒として、それぞれが一生懸命修行を始めたならば、この現世というものは悪業の巣窟だから、悪業プラス善業を積んでいる状態、つまりこの欲六界の中の上位に生まれ変わるための切符を買って、そしてそれを徐々に確実なものに

していっている状態ということがいえるでしょう。そして、出家をし、一生懸命修行に励むならば、一切悪業のない、善業だけを積むことのできる条件のもとに生活するわけだから、その人は当然この欲界を離れ、色界、最終的には色究竟天（しきくぎょうてん）を越え、そしてコーザル世界の上位に入り、最終的にはマハー・ニルヴァーナに入るという切符を手中にしたものと同じということがいえるでしょう。

　つまり、この三つのステップは、皆さんの三つの段階を表わしているといえるわけです。

　そして今、例えば日本の神道で祭られている神々というものは何かというと、氏神である。これは、要するに、まあ権力を持ったお方々が亡くなられて、それを奉っている状態である。まあ、これはせいぜいが阿修羅である。あるいは、インド・ヨーガ的な単純なデーヴァというものは、単純

な神というものは、これは要するに功徳を一生懸命お積みになって、欲界の最上位に行かれた方である。ところが、今あなた方の目の前にいる大師方は、いずれこの欲界を越され、そして色界、そして無色界の最上位に入っていかれる方である。つまり、デーヴァを越えられる方々であると確信を持っていいと思います。

もし、今わたしの話していることが嘘だとするならば、それは二千五百年前、仏陀釈迦牟尼がお説きになった法そのものが嘘ということになる。もし、今わたしの話していることが本当だとするならば、二千五百年前釈迦牟尼がお説きになった法そのものが、やはり真実だったということがいえるでしょう。そして、大師方が、少しずつ少しずついろいろな意味での力をつけ、いろいろな体験を持ち、そして信徒さんの心の安らぎの場となってきているという事実を見ても、それが間違いないなということはいえる

と思います。そして、皆さんは、皆さん自身ができるだけ早く今のステージを一歩でも二歩でも進め、そして解脱へ向かって修行に邁進されることをわたしは望みます。

◉欲界からの離脱のために

では、次は、修行に必要なものは一体何だといったら、これはまず三つあるでしょう。一つは何かというと、最終地点に到達するための道しるべが必要であると。これは、オウムでは、各ステージの大師がいらっしゃるから、それを一つの道しるべとして考えてよかろう。そして次は、それに至るための修行法が必要だろうと。これは、大師、あるいはわたしに任せていただければ、皆さんに合った修行法の伝授をしますから、それに乗って進んでいくだけで、十分到達するだろう。次は、そこへ到達するための

エネルギーが必要だろうと。これは、皆さんが大いに功徳を積み、そして悪業を滅されることである。

皆さんが、この道しるべ、乗物、そしてその乗物を動かすエネルギー、この三つを保有なさり、そして一直線に解脱に向かって邁進されるならば、今この地球に生まれ、そして生活していることの本当の意味、それから自分の功徳の高さ、これをいずれ認識されることと思います。

いずれにしろ、人生は短い。どんなに長くとも、百数十歳で死んでしまう。そして、今から、例えばわたしの年令から百数十歳までといったら長いなと感じるが、もう終わりに近付いたら、その経験したものは瞬間である。

わたしは、皆さんが、ある人は色界に生まれ変わり、ある人はマハー・ニルヴァーナに入られるよう、これから全力で努力されることを希望して

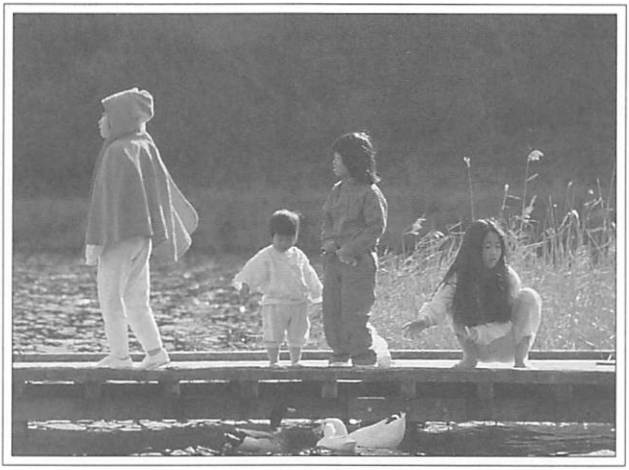
やみません。

欲望の世界、この欲六界は、天へ生まれ変わってもいずれは必ず地獄へ生まれ変わる、そういうラインができています。ですから、早く欲界から離脱なさり、そして色界、あるいは無色界に生まれ変わるよう、今日この瞬間から精進に励んでほしいと思います。そのためには、皆さん、日々、自分は高い世界へ生まれ変わるぞと、自分は高い心の持ち主になるぞと、あるいは自分は、例えば欲界に生まれ変わったとしても、それはあくまでも救済のために欲界に生まれ変わるぞと、こういう修行者としての心、あるいは菩薩としての心をお持ちになり、日々の生活においてそれを思念し、外的情報から入ってくる煩悩的な情報を排斥し、そして解脱へ向かってください。いいね。

尊師、麻原彰晃が斬る！

幼児教育を語る！

「集まれ！ 超人類の子供たち」



PRESCHOOL EDUCATION

◉四十度の高熱でも平気な子

はい、それでは今日の話に入りたいと思います。

今日のタイトルは「集まれ！　超人類の子供たち」と。一体超人類とは何だろうか。今までの子供たちとどのようなところが違うんだろうかと。まず典型的な例として、今から二週間くらい前、札幌の「真理の集い」で聞いた、おばあちゃんの話から入っていきたいと思います。

そのおばあちゃんには四歳半になるお孫さんがいらっしゃると。で、そのお孫さんが熱を出され、体温計を当ててみると、四十三度の熱であったと。普通だったら、そこで即病院に入れて入院させるわけだけれども、待てよ、とそのおばあちゃんは思われた。

というのは、そのおばあちゃんの娘さんがね、オウムの信徒だったわけだ。そして、その娘さんの話だと、オウムの子供たちというのは、高熱が

出ても平気なんだと。そして、それは体を強めていくための一つのプロセスなんだということを聞いてらっしゃったわけだね。
それで、娘さんに電話をして、処置を札幌の本部の方に問い合わせがあって、で、札幌支部の担当大師であるラーフラ大師が適切なアドバイスをしたみたいで、結局、二時間半くらいの間に、その四十三度の熱は平熱に下がっていたと。
皆さんは子供の体温というものがね、一体どの程度上昇するならば、死の危険が伴うか知っていますか。これは、近畿大学の大学病院に勤めていらっしゃるドクターの話なんだけれども、四十三度の熱イコール現代人にとっては死なんだね。で、普通の状態だと死ぬような高熱でも、この超人類の子供たちというのは平気で生きているわけだ。というよりも、そういう高い熱を何度も何度も出しながら、体はどんどんどんどん強められていっ

ているわけだね。

◉強いエネルギー、高い霊性

では、一体なぜ強められていくんだろうか。これはね、ヨーガの言葉を借りるならば「トゥモ」といって、要するに、肉体の火元素、つまり体温の元素が強い状態であると。これは少しも病ではないわけだ。そして、この火元素が強いということは、当然エネルギーが強いわけだから、そのエネルギーの強さによって、ね、いろいろな現象が出てくる。

例えば、性格的にもね、大変なわがままな子供になるとか、あるいは極端に暴力を振るう子供になるとか、あるいは今のお父さんやお母さんは信じられないようなね、思考の形態をたどるだとかね。それが、今生まれてきつつある子供たちの特徴なんです。オウムの信徒の子供さんを見ると、

幼児教育を語る!



ほとんどがそのパターンに属しているんだね。
そして、そういった子供たち、これを持つ親というのは一体どのようにしたらね、そういうエネルギーの強い、一見わがままな子供たちをね、育てることができるんだろうかということになる。
はい、少し静かにしようか。ね。ほとんど子供にこの空間を占領されているみたいだからね。ね、しっ、しっ、しっ、しっ、しっ、いいかな、静かにするよ。
まずね、子供の特徴というものを仏教的な宇宙観からとらえるならば、今の人間よりも、一つ二つ次元の高い子供たちだということができるわけだね。それはなぜかというと、地獄・餓鬼・動物・人間・阿修羅・天界というのが仏教の世界観なんだよ。で、その中で、地獄・餓鬼というのは地元素といって、要するに固体成分が優位な世界であると、そして、動物・

人間というのは、液体成分が優位な世界であると。そして、阿修羅・天界というのは、ね、火元素、熱元素が中心の世界であるといわれているわけだね。

ということは、わたしたちよりも高熱に強いこの子供たちというのは、当然熱元素中心の、熱元素が優位になっている子供たちなわけだ。とすると、わたしたちよりも、精神のレベル、霊的なレベルも高いというふうに考えた方がよろしい。そして、エネルギーが強いと。今日の空間もそうだけど、子供たちはわたしの話と関係なく、はしゃぎ回り、勝手に自己主張をしてるよね。

◉心の成熟――四段階のプロセス

では、これはね、悪いことなんだろうかという問題になるわけだ。とこ

ろが、わたしは少しも悪いことだと考えていないんだね。
ヨーガでは心の成熟のプロセスには「四つの段階」があるといわれています。
第一の段階は、わたしたちが自己を主張できないほど、環境によって抑え込まれた状態と。そして、第二の段階には、今、この子供たちが表現しているように自己主張する、要するにエゴの状態と。そして、第三の段階は、自己のね、エゴではなくて、それを今度は自分自身が理性によって抑える段階と。そして、第四の段階では、その理性を超越して、ね、すべての人のために、自分自身のね、心というものを使うようになっていく大我、大きな我の段階であると、ね。付け足すならば、その後に、涅槃、ニルヴァーナが来るといわれているわけです。
ということは、わたしたちが小さいときに親から教わった、抑え込まれ

た心の働きではなく、今の子供たちは第二番目のエゴの段階からすでに生まれているわけだから、これを抑え込むのではなくて、「理性的に教育していく」と、ね。この理性的に教育していくということが、この子供たちを正しく成長させるためのただ一つの方法ではないかなと考えているわけです。そして、このただ一つの方法で、成功している家庭というのが続出しています。

◉真理を学び、智慧を磨く

では、どのようにしたら理性的に教育できるのかと。それは、子供、あるいは幼児が「納得できるような絶えず説明を繰り返す」こと。つまり、親の権限によって抑え込むのではなく、話し合いを絶えず行なうと。そして、絶えず相手を納得させながら、生かしていく、成長させていくという

ことだね。

では、その成長させていくためには何が必要なんだと考えると、やはり、子供を納得させるだけの「しっかりとしたものを考える力」、これが父親、母親には必要なんじゃないかとわたしは考えているんです。

それはちょうどね、ここに水があって、その水の上に風船が浮かんでいると。これが子供であると考えましょう。その子供を一生懸命力ずくで抑え込んだとしても、力が加えられているときというのはその風船は水の中に沈むけれども、放した瞬間にポッと持ち上がって、元に戻ってしまう。それと同じなんだね。

だから、もし、母親がだよ、そうではなくて、その風船の性質を知り、そしてうまく指導していくならば、ね、その水の上に浮いている風船の状態から、逆にもっとガスを加えてあげて、そして水から浮き上がり、高い

世界へ飛翔させられるんじゃないかなということなんだね。
よってね、もう一度繰り返すけれども、超人類の子供たちの両親に必要なもの、それは、知性ではなくて「智慧」であると。子供たちがいろんな質問をしてくるだろう。あるいは子供たちがいろんな状態に陥るだろう。そのときにね、智慧を持って接することができるかどうかなんだね。
では、一体智慧とは何から生じるかといったら、これは真理からのみ生じるんだね。つまり、あなた方一人一人が心を浄化し、清らかにして、その心清らかな状態から、ね、浮いてくる思考というかな、浮いてくる考え、それこそが智慧なんだよ。
だから、超人類の子供たちのお母さんに必要なものは「真理を学ぶこと」、そして、「智慧を磨くこと」ということになるよね。もし、それがなされるならば、子供たちはスムーズに、しかも他の子と違って抜きん出た才能

を発揮し、成長の足を進めていくこととなるでしょう。

尊師、麻原彰晃が斬る！

天才作曲家が語る音楽の真理！

「高次元世界の調べ——アストラル音楽」



ASTRAL　MUSIC

◉わたしたちを構成している音、ずっと昔から持っている音

（一九八九年九月二日　渋谷エピキュラスラウンジにて）

わたしたちを構成しているもの、これは、まあ、あなた方もご存じのとおりこの肉体、そしてヴァイブレーション、そして光と。この考え方にはいろいろと異論があるかもしれませんけれども、これはまあ、一応ヨーガ、あるいは仏教の考え方です。そして綺麗な音を聴くと、それだけ肉体が綺麗になると。あるいは心が綺麗になると。また、粗雑な音を聴くとそれだけ心がすさむと。現代社会を見つめた場合、まあ、例えば騒音、例えば空気汚染、わたしたちを清らかにするような要素というものはほとんどないわけですね。そして、この「アストラル音楽コンサート」のアストラル音楽は、あなた方も、もちろんわたしも持っている最も高い世界の音、とい

うことができると思います。
　少し詳しく話すならば、仏教やヨーガでは六つのシッディ、つまり超能力というものを認めています。その中で、遠くの会話を聞いたり、あるいは高い世界の示唆を受けるときの、これは『聖書』なんかにもよく出てくる内容だけれども、この力を持つこと、これを「天耳通（てんにつう）」、天耳通を持っているといいます。そしてそのシッディを身につける前段階において、いろいろ神秘的な音を聞きます。で、このアストラル音楽というのは、その神秘的な音を組み合わせて作ったもの。ですから、この音楽をお聴きになった方はおそらく、次のことにお気付きになったんじゃないかと。
　それはまず、なんと懐かしい曲だろうと。そして、なんとゆったりした心をわたしたちに与えてくれる曲だろうと。つまりそれは、あなた方も、そしてわたしも持っている、ずーっとずーっと昔から持っている音なんで

すね。ですからそれによって、わたしも、そしてあなた方も、安らうことができると。そしてこの音の世界を通過した段階で、わたしたちは、ね、遠隔透耳、つまり遠くの会話を聞く力を身につけたり、あるいは高い世界の、まあ、魂と交信をしたりすることができるようになるわけです。

現代社会を考えた場合、わたしたちにはいくつかのアプローチがあると。例えば、今わたしとそしてわたしの弟子たちが行なっているようなこういう音楽活動によって、二十四時間、仕事、そして家庭生活、そして騒音で悩まされている人たちの心を少しでも癒してほしいと考え、活動する方法。そしてもう一つは、もっと上から、つまり例えば学校教育において、もっともっと優しい音楽を取り入れてほしいな、だとか、例えば教科書の内容をもっともっと心を豊かにするような内容を取り入れてほしいな、だとか、いうようなアプローチをね、することによって、皆さんの心をリラックス

させ、そして、本当に幸福になってもらいたいと考えるアプローチと。
もう一つは、完全に宗教的にどんどんどんどん深い瞑想、そしてちょっと難しい言葉だけれど、三昧、つまり肉体から完全に魂を切り離すといったような修行法の実践を行なって、その人自体が本当の意味で自由で幸福になると。こういう三つのアプローチが考えられると思います。そしてこの一つ一つ、それは素晴らしい。しかし、三つ合わせるならばもっと素晴らしいのではないかと。そして、オウムではその三つをね、一緒にやっていきたいと。やっていかなければならないんじゃないかと。

＊

例えばここにラーメンがあったとして、そのラーメンを食べたい食べた

いといっても、もし食べに行かなければ、あるいは作らなければ食べられないのと同じように、わたしたちはラーメン屋さんに行く労力を惜しんではいけないと思います。あるいは、ラーメンを作る労力を惜しんではいけないと思います。そしてそれが、その努力をなすことが、わたしたちが本当に幸福になるための社会をつくる条件となるのではないかと考えているんです。

◉心からわかり合える世界をつくること

（一九八九年九月二十三日　原宿クエストにて）

皆さんは例えばナインのコード、あるいはセブンのコード、つまり不安定な音の組み合せのそういう音を聞いたとき、どういう心の働きを生じま

すか。ヨーガや仏教では音のヴァイブレーションと、そして言葉の意味合い、この二つを最も大切な修行の要素だと考えています。

例えば救急車がピーポー、ピーポーという音を出すと。あれは大変人の心を不安定にすると。そしてその不安定さをかき立てることがねらいで、あの音が選ばれていると。つまり緊急なんですよと、急いでるんですよという、そういう意味合いがあの音には込められている。

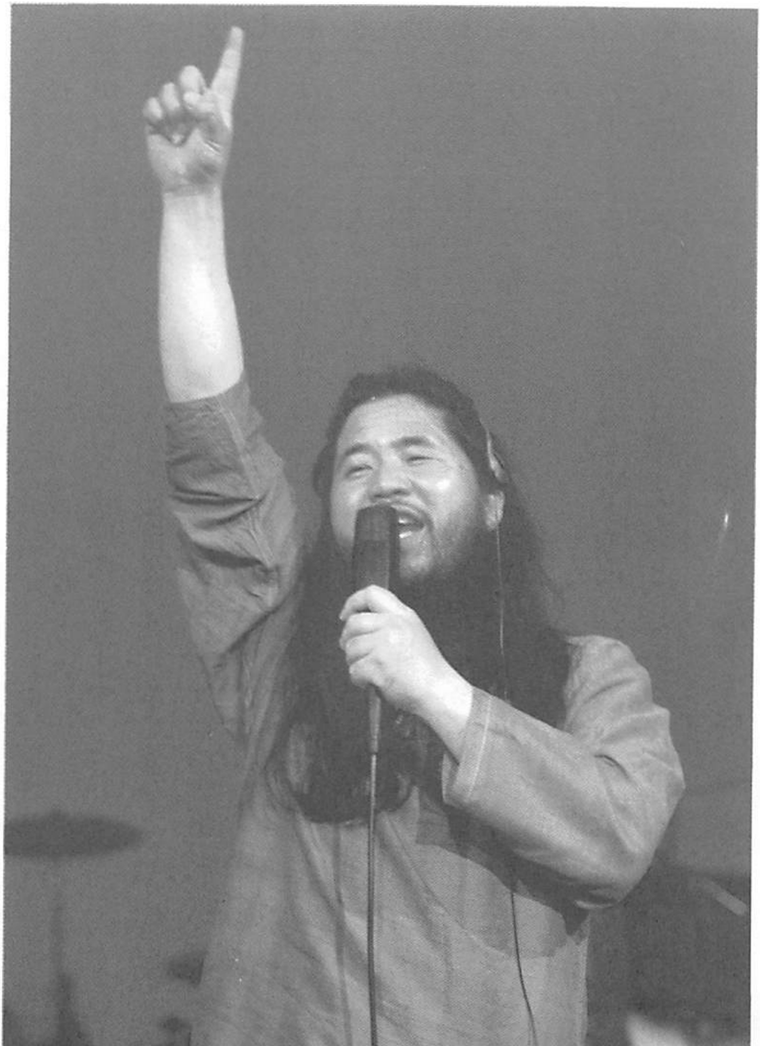
そしてわたしたちが瞑想修行を一生懸命行なっていくうちに、自己のカルマといったらちょっと専門的になりますから、どう言ったらいいかな、運命とでも言いましょうか、運命が音であることに気付くと。そしてその音を追求していくならば、最後は運命が光であることに気付くと。「一体麻原それはどういう意味だ」と。それはこういうことですよと答えることができる。

つまり先程も言った不安定な音で構成されている、そういう音の世界をお持ちの方の人生というものは、不安定であると。あるいはド・ミ・ソとか、ね、例えばそういう長調のような、明るい整った音で構成されている人は明るいですよと、人生は。しかし楽しいだけで深い意味合いの人生というものは理解できないでしょうねと。

そして修行の最後の段階、俗にいうところの超能力ですね。まあ、専門的には神通力。神に通じる力という、まあ、言葉を仏教、ヨーガでは使っていますけども、この最後の力をつける段階では、その音を一つずつ消していくと。

なぜ消すんだというと、消していって透明にするんですよと。完全に透明になった段階を小乗の成就、ニルヴァーナに至る道を得た人という言葉を使える状態になります。これを仏教的な言葉を使うならば阿羅漢という

天才作曲家が語る音楽の真理!



言葉がね、適用される、そういう状態になります。

そしてその状態になった人が次は自己の苦しみを喜びとし、他の苦しみを自己の苦しみとし、そして他の善行に対して、他の素晴らしい行為に対して、心から称賛できる訓練を本当に始めると。そしてこの世の中というものは苦しみである世界であるにかかわらず、わざわざその世界に降りてきて、そして人々の苦しみの断滅に協力すると。これが大乗、マハーヤーナといわれてる世界です。当然行為の背景には先ほど言いました音があるわけですから、この音というものは、明るくしかも静かで、その音楽を聴いていると、心に響くと。そしてそれがアストラル音楽だとお考えになってよろしいと思います。

このアストラル音楽を何度も何度も聞いてらっしゃると、二つのことに気付くはずです。まず第一は飽きないと、この音楽そのものが、エゴを背

景として作り出された音楽ではありませんから当然飽きるはずがないと。そして第二に若干の緊張、そして意識が上の方にね、引き上げられると。それもそのはずです。すべての魂の心の成熟、そして霊性の向上ということを目的としてつくられた音楽だから。

ではなぜこのような音楽を発表するに至ったのかと。麻原は宗教家ではないかと、麻原は修行者ではないかという疑問が出てくるかもしれません。それは先程も言いましたが、わたしとわたしの弟子たちの修行の目的、そのものが自己の苦悩の消滅だけでなく、すべての魂の苦悩の消滅、そして本当に人と人とが心からわかり合える世界をつくること。そして一人一人の幸福というものを追求して生きてるような、そのような世界をつくること。これがわたしたちの活動の目的だからなんです。

◉透明な湖のような心

（一九八九年九月二十四日　久我山会館にて）

現代のアメリカの社会において、大変な流行を巻き起こしている一つの音楽があります。それはこのアストラル音楽と大変似た形の音楽で、右の脳、左の脳をシンクロナイズすると。そしてそれによって知能を開発したり、あるいは霊性を向上させると。

そしてそれを作っている人がチベットの――ご存じですか皆さんチベット――チベットのラマであると。ラマというのは要するに修行者、お坊さん、元ね、修行者のお坊さんであると。そして、その音楽を数百万人の人が愛用していると。

またこれはイタリアから起こった一つの能力の開発法にモンテソーリー

教育というのがあります。このモンテソーリー教育というのは何かというと、まあ、いろんなテクニックがあると思われますが、その主流は指の訓練によって、知能を開発すると、指の動きによって知能を開発すると。そしてこれも同じようにインド密教の手印、つまりムドラーから、手の形ですね、ムドラーから編み出されたんだという一つの考え方があります。

一体能力とは何でしょうか、知能とは何でしょうか。それをわたしは心の透明さだとここで言ったならば、皆さんの中から、いや、そうじゃないよと、あるいはそうだよと、どちらのお答えが返ってくるでしょうか。

わたしは人の心というものは湖にたとえることができると考えています。その湖の湖面がもし綺麗で、そして波打っていなければ、その湖に映し出される映像というものも、波立たないで、そしてありのままに映し出すことができると。そしてその状態を最も心の安定した、最も記憶力のいい状

態であると。しかし、もし湖が波立っているならば、映し出される映像の主体に関係なく、当然揺れて映像が映るだろうと。主体が揺れていなくても、揺れて映るだろうと。

あるいは湖に濁りがあれば、当然主体が濁っていなくても、濁ってるかのように映るだろうと。もし湖の上に苔が生えているならば、当然対象を映し出すことはできないだろうと。

そして、この波立つ心の状態、濁っている心の状態、あるいは苔の生えている心の状態を三つの心の毒によって、三つの心の毒とは心に貪りが生じた状態、あるいは心に嫌悪が生じた状態、あるいは心が無智に覆われた状態ということができると思います。

そして素晴らしい音楽を聴き、あるいは素晴らしい音楽を演奏し、それに集中すると、集中することによってわたしたちの心は静まり、そして安

定すると。静まり安定することによって記憶する力も増大すると。あるいは集中する力も当然増大すると。あるいはものをありのままに見つめる力も当然増大すると。そして能力が増大すると。心に安定があるわけだから、安らぎも生じると。その上に能力も増大すると。一挙両得であると思います。

ちょっと考えただけで、これだけの効果というものが音楽の中には存在しています。そして一つ一つの現象をありのままにとらえ、すべてを完全に自分の内側に吸収してしまうことができるならば、今まで問題だったものも問題でなくなってしまうはずです。

◉アストラル音楽――心の内側の世界

（一九八九年九月二十七日　杉並公会堂にて）

今、皆さんが見ていらっしゃる、この座り方。ヨーガではこれを座法といいます。この座り方を蓮華座、インドの言葉ではパドマ・アーサナ――パドマというのは蓮華という意味ですね、アーサナというのは座法のことです――といいます。

そしてこの座法を訓練することによって心は静止すると、もちろんヨーガの経典の中には大げさな比喩も含まれていないことはありません。ですから一概にこの座法を組み、即、精神が安定すると考えることは軽率だと思われます。しかし、確かにこの座り方を訓練していくうちに、体は固定され、そして精神は安定します。

この座法の訓練の後、まあ、今わたしが唱えました、例えば「オウム」、これはマントラ、マントラとは何かというと神の言葉という意味なんですけども、このマントラの訓練、あるいは祈りの訓練を続けて修行すると。そして少しずつ少しずつ自己の心の内側に入っていくと。そして自己の内側にある煩悩を見つめ、その煩悩に対していろいろと思索すると。つまり、考えるわけですね。

例えば、なぜ食べ物を見たら食べたくなるんだろうかとか、どのようにしたら、その食べる回数を減らすことができるんだろうかと、心が絶えず不安定なんだろうかとか、その心の不安定さをどのようにしたら取り除くことができるんだろうかとか、一つずつ心の問題を解決していく。そして完全に解決した状態、この状態を無といいます。禅でよくいう無ですね。そしてこの無の状態、つまり完全に空白の状態、この空白の状態を続けて

いること、これをサマディ、つまり死の状態といいます。そしてこのサマディによっていろいろ不思議な力が身につきます。

では今回皆さんがお聴きになったアストラル音楽の音の原点は何だろうかと。それはそのサマディの段階で登場してくるわたしたちの心の内側にある音、この心の内側にある音を構成してでき上がったもの、これがアストラル音楽なんです。

例えば「ターンタタンタンタン（アストラル音楽の『救世主』の一節）」と、この音が何度も何度も聞こえてると、もちろん、これはバリエーションがあります。例えば「ターンタタンタンタン（同じ曲の別の一節）」とかね、例えばね。そういう、いろいろ変化があると。もちろん一曲の曲にするわけですから、その切り捨てている部分もたくさんあります。しかしできるだけ心の内側にある音を組み合せ、形成し、そして皆さんにそれを

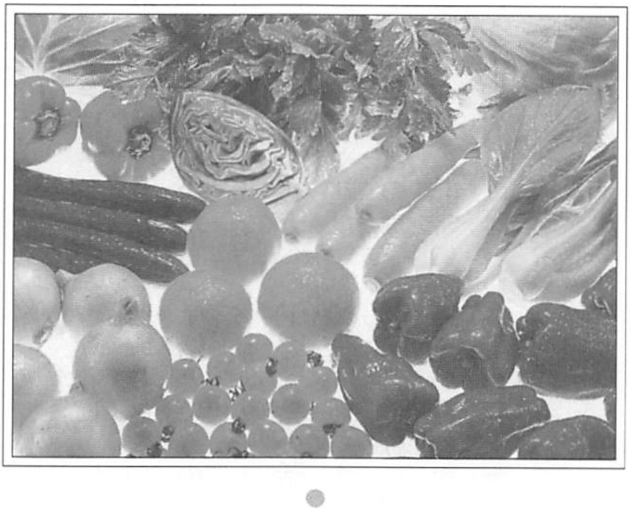
聞いていただこうとしているわけです。

そこで皆さんが一体どのような感覚におなりになるのだろうかと。もし皆さんが今日の音楽をお聴きになり、「ああ、ゆったりした気持ちになったな」と、あるいは「少し眠気が出てきたな」と、あるいは「心が明るくなったな」と、このようにお考えになるならば、今回のアストラル音楽コンサートは成功したといえると思います。

尊師、麻原彰晃が斬る！

食養説法

「穀物、野菜、肉……、すぐに役立つ食養の話」



A LECTURE ON DIET

◉すぐに役立つ食養の話

皆さん、非常に食養に興味をお持ちですから、食養について話したいと思います。もし、メモを取られるんでしたら、お取りになった方がいいと思います。といいますのは、わたしの今から話す話というのは、おそらく日本でもまあ、そう聞ける話ではないと思うんですね。それは中国の食養の話、それからインドの食養の話、まあチベットの食養の話を含めましてね、皆様が即、役に立つような話をやりたいと考えています。

まず食養というのは、よくいわれるのは、陰と陽というのがあるわけですけども、この陰陽の概念というのは非常にあいまいなんですね。あいまいとはどういうことかというと、例えば陽というものは、熱であると。それから陰というものは「寒(かん)」、つまり体を冷やすということであるとか。あるいは、陽というものが集中であると、そして陰というものが拡散であ

るとか。あるいは陽というものが軽いと、陰というものは重たいとか、いろいろと概念がありますす。ですから、この一つの概念で、例えば食養というものを語ることはできないと。

じゃあ、現代の食養ではどういうふうな考え方があるかと。まあ、現代の食養といっても、日本の先生方がやってらっしゃる食養と、わたしの今まで研究してきた食養は全く違いますので、まあそこのところは、ゼロにして聞いてほしいですね。

◉食べ物にはそれぞれ性質がある

で、要するに、まず食性というものがありまして、食性というのは食べ物の性質ですね。

これは、まず体を暖める食べ物と冷やす食べ物――それから、大きく分

けますよ、わかりやすいように——それから、エネルギーを上昇させる食べ物とエネルギーを下降させる食べ物。
それから、例えば汗などをね、収斂させる、つまり汗を出せなくする食べ物と、それから拡散させる食べ物、ね、汗なんかを出す食べ物。
それから、体力をつける食べ物と毒素を出す食べ物と。まあ、だいたいこれぐらいに分けましょう、今日は。もっとほんとは複雑なんだけども、実際、たくさんの理論を覚えたとしても使いこなせなかったら仕方がないわけだから。

◉そばは暖め、米は冷やす

それで、まずわたしたちにとって一番大切なのは何かというと、体を暖める食べ物と冷やす食べ物なんですね。いいですか。で、冷やす食べ物の

典型が、まあこれは本によって違うわけだけども、わたしの実験した結果からいうと、例えば米ですね、体を冷やす食べ物。それから麦、まあ、こういうものが体を冷やすと。基本的にはですよ。あの今、主食からいきますからね。

そして、その反対側にそばというものが体を暖めると。まあ、これは食養の本では、だいたい「平（へい）」になっています。平というのは、体を冷やすこともないし、暖めることもない。しかし実際には、例えばちょっと熱っぽいなっていうときにね、玄米をお食べになるとか、あるいは麦をね、純粋な麦をお食べになるとかなさると、体が例えば冷えると。そして、まあ微熱に関しては治ると。これは簡単ですね。で、本当はその玄米とか、麦を食べるよりも、それを実際煮出して、ね、重湯にして飲む。これはもっと効果があります。

だから、例えば体がちょっと冷えてるなっていうときにはね、その、そうですね、でき合いのそばを買ってくるんではなくて、そば粉を買ってきて、実際に団子をお作りになって、そしてね、煮ると。で、その煮汁を飲むと。もちろんこれは、先程の米とか麦、あるいはそばというものをね、食べても構いませんよ。

◉何を食べれば快適に？

で、ちょっとポイントをずらしますけども、この麦、それから米、それからそば、ね、まあと、今はやりのハト麦、この四種類のね、まあ徹底的分析をやって、その後に他の食品に入っていきたいと思います。いいですか。

で、今、熱寒（ねっかん）でいったならば、順番を言いますと、一番体を冷やすもの

が、ハト麦であると。そして、その次が麦であると。まあ、麦もね、大麦、小麦とありますけど、だいたいこれは同じだと考えていいと。そして、その次が、玄米ですね。

それから、体を暖めるのって少ないんだね、それはそばであると。で、例えば主食として、とうもろこしもあるんだけども、あれはあまりたくさん食べない方がいい。これは、どういうことかというと、とうもろこし自体は体をあったためます。しかし、あれはビタミンのね、Cをね、破壊するんだよね。アンチビタミンというのがありまして、そのビタミンが入ってきた段階で、そのとうもろこしを食べてると破壊するわけです。だから、とうもろこしの食べ過ぎは良くないと。まあ、毎日食べなければ別に構いませんけども。で、とうもろこしは一応体をあったためる食物であると。

いいですか。もう一回いきますよ。体を冷やす食物からいくと、ハト麦、

それから麦類ですね、それから玄米と。そして、このそばと、それからとうもろこしが体をあっためると。

そうすると、例えばちょっと冷えたなとか、ちょっと逆に言えば暑いなというときに食事のコントロールをうまくすれば、快適な生活を送ることができるわけですね。

◉ハト麦の食性

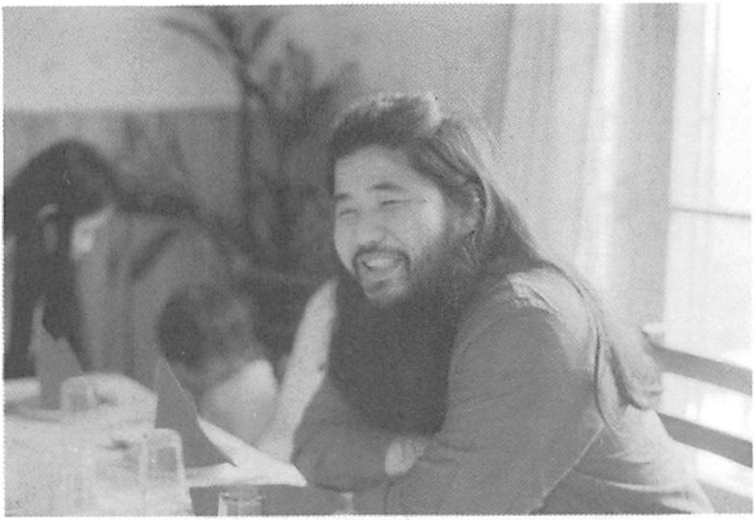
じゃあ次に、ハト麦から、今順番からハト麦、麦、それから玄米、そば、それからとうもろこしの順に来たわけだけども、まあとうもろこしは、ね、熱の性質の食物が少ないから、今ここに挙げたわけだけども、それはもう主食ではないから、一応落として、この四つについてもう一回考えますよ。ハト麦に関しては、まず体を冷やす働きがあると。で、次に体力はつけないと、これは。いいですか。これは

毒を出します、体の。だから、例えばハト麦を食べると体が痩せるというのはね、つまりわたしたちの毒を出してくれるから体が痩せるという理論なんだね、これは。そして、集散でいったら、散であると。つまり、汗なんかをかきやすくすると、ね。それから、昇降でいったら、エネルギーを上昇させる、下降させるでいったならば、それは下降させるということになります。

だから、その性質を理解してれば、例えば疲れたなと思うときにハト麦は食べないと、ね。例えばちょっと体重が太ったなとか、あるいはあまりカロリーとして欲しくないなとか、あるいは、そうですね、汗をかいてみたいなとか、そういうときにハト麦を使うといいと。いいですか。

◉麦の食性

次に麦に移りますよ。麦は、今一番初めに言ったとおり、まず性質としては、ね、「寒」であると。正確に言うと、「涼（りょう）」なんだけどもね、まあ一応熱寒で分けてるから寒にしましょう。体を冷やすと、ね。そして、エネルギーを上昇させる、下降させるでいったら、下降させると、ね。次に汗を出しやすいか、あるいは汗を出さないかと、汗を止めてしまうかというね、性質でいったら、汗を止めてしまう性質があるんだよ。だから、ここがハト麦との違いだよ。いいですね。ハト麦は汗を出します。そして、小麦、大麦は汗を出しません。だからそれは、汗っかきの人は、例えば、麦を食べればいいし、汗が出なくて困ってる人は、ハト麦を食べればいいってことになるよね。いいかな。



◉玄米の食性

で、次に玄米です。玄米はどうかというと、あっそれから——「補瀉（ほしゃ）」があったね。それから、麦については、これはエネルギーを蓄えます、これは。だから、疲れたときに向いてますね、そういう意味でいったら。

次に玄米になるわけだけども、玄米の性質というものは、いいですか、まず冷やすということがありましたね。そして、次にエネルギーを下降させると。そして、これは収斂の作用が強いですから、汗をかかなくすると、ね。それからエネルギーを蓄えると、ね。この四つの性質がありますね。

◉そばの食性

そして、次はそばだ。これは、現代人はだいたい下降の食物が多いから、そばを食べると非常にいいんだよね。そのそばの性質というのは、これは

全然違うからね。まず、エネルギーを上昇させると。で、体をあったためるでしょう。それから、体力をつけると。そして、汗などをかかなくすると。これがそばの性質だね。

◉食物の使い分け

ほら、主食といっても、普段わたしたちが食事として食べられるような、四種類の食物があるわけだけども、それでもこれだけ性質が違うわけだ。だから、一概に「おなかが空いた、好きなものを食べればいい」じゃないわけだね。だから例えば、自分のコンディションに合わせて、例えばちょっと浮いた気分になってみたいというときには、例えば、そばを食べればいいと、ね。そして、例えば不眠で眠れないというときには、麦を食べればいいと、ね。例えば、便秘で困ったというときは、玄米を食べればいいと。

まあいろいろあるわけだね。

◉漢方薬にもなる玄米、小麦、ハト麦、そば

じゃあ、例えば今言った三つの主食の、なぜ、例えば浮いた気分になりたいとき、そばを食べればいいかというと、エネルギーを上昇させるわけだから、そのエネルギーが上昇すると同時に、気も上昇するわけだ。これが昇（しょう）という意味合いね、エネルギーを上昇させるという意味合いなんだ。

で、次に、小麦とか大麦を見たらエネルギーを下降させますよね。玄米もそうだけども、これは。だから、下降させるから、結局気持ちを落ち着かせて、深い眠りに入れてくれると。そういう意味で、その不眠のときには小麦を食べなさいと。あるいは、便秘というものは、便を下に排泄させられないと、アパーナ気の働きが弱いわけだね。だから、玄米を食べるこ

とによって、要するにエネルギーを下降させると、ね。それによって便秘を治すと。

まあ、実際問題として、例えば玄米などはね、ま、玄米、それから小麦、それからハト麦、それからそば、これは四種類とも漢方薬に入っています。皆さん知ってますか、それは。例えば米については粳米（こうべい）という言葉を使っているんだね。「うるちまい」と書いて粳米。それから、まあそばはそばでいいですね、これは。それから、麦については小麦（しょうばく）、ね、あの小麦のことを「しょうばく」といって、ちゃんと心臓が悪いときに使う。あるいは不眠症のときに使う特効薬として使ってます、漢方薬では、ね。そういうきちんとした漢方の処方の中の中心の薬として使われてるわけです。

ですから、薬として使われてるということはね、何かというと、まかり間違えば一つの方向性の病になるということもいえるわけだね。例えば、

米だけを食べてるとどうなるかと。ね、まあ、当然気は下がると。だからよくは眠ると。しかし、気分は重たくなるということだよね。それから、体は冷え加減になるという、ね。こういうことが起きるわけだね。まあ、例えばそばだけを食べてると、浮いた気持ちになると、ね。しかし、不眠症になると、ね。こういう病気が出てくるわけだね、例えば。だから、そのところは食事によってコントロールすべきであるということだね。

◉食性の見分け方

じゃあ、食物全体の特質からいったら、どうしたら見分けることができるかという問題が出てくるよね、これは。そうでしょう。一般的に寒い地方で採れる物は、体をあっためますといっています。わたしは、これに対して若干の疑問を持っています。しかし、まあ大筋においては、これは正

しいでしょう。それから、逆にあったかい地方の食べ物というのは、体を冷やすといっています。いいですか。

それから根っこのものというのは、その根っこの細胞自体が水分とか養分を吸収して上昇させるわけだから、エネルギーをアップさせるよといっています。いいかな。

逆に、葉っぱ類、あるいは果実類は、ね、もう上がってきたエネルギーを吸収するだけであると、ね。じゃ、例えば、まあこの果実というものは落下するし、葉っぱも落下するから、もともとの素質というものは下降傾向にあるんだよといっていますね。

それからもう一つ、エネルギーを吸い上げるような根っこ的なものね、根っこ類は、例えば汗なんかを引かせると、収斂の作用があるといっています。それから逆に、葉っぱ類に関しては、汗を出させるね、発散の作用

があると言っていますね。いいですか。
それから、エネルギーを蓄えるもの、あるいはエネルギーを下すものに関しては、これは原則はありません。その特質というか、経験的なものですね、これは。

◉性格改造のために

で、その表を理解してらっしゃったならね、例えばある程度の性格は変わるんだよ、修行しなくても。そうすると、みんな修行しないかもしれないけど。
例えば、毎日憂うつであると。こういう人はそのエネルギーを上昇させるものだけを食べさせれば気分は明るくなると、ね。例えば、そうだな、人のことばっかし気になって発散した状態であると、気持ちがね。これは、

先ほど言った拡散の作用が強いわけだから、収斂のものを食べればいいと、ね。例えば、落ち着きがないと。ね、落ち着きがないというのは、いろんなものにすぐ興味を持って、飽きてしまうと。こういう人というのは、先程言った上昇のエネルギーが強いわけだから、下降させればいいと。

まあ、こういうふうな原則があるわけだね。もっと、あの複雑な原則があるわけだけども、今日は一応総論ということでね、今話してるわけですけど、そういうことを踏まえて食事というものを見るならば、わたしたちは決して好きなものを食べればいいと、嫌いなものは食べなくていいってわけじゃないんだね。

◉嫌いなものを食べるのも健康法

じゃあ、例えばだよ、この今言った理論を度外視して健康になる方法は

ないかといったら、ただ一つだけ方法があるんだよ。それは何かというと、嫌いなものを食べると。その嫌いなものを食べるとは一体どういうことなのかというと、大体一つ、先程言ったけど、一つの方向で食事生活をだいたい進めてます、わたしたちは。だから、その嫌いなものというのは、それに対して反対側のエネルギーなんだよね、大体。だから、好き嫌いをしないで食べてください。

◉野菜の性質

はい、じゃあ次はね、野菜の性質にいくけども、えっとまずどういう野菜があるかな。それぞれ挙げてくれるか。

(信徒) ニンジン、ジャガイモ、ゴボウ、レンコン、ハクサイ、ホウレンソウ、サトイモ……。



（尊師）あの、まず、ゴボウとハスというのは同じ系統だと考えてくださ
い。ね、あれは両方ともエネルギーを上昇させます。いいですか。そして、
体をあっためます。いいですか。それから、汗などを引かせます、という
ことになるね。

で、一つだけ、その日本の経典に矛盾があるのは、ゴボウとハスをいく
ら食べたって、体力はつきません、あんまり。ところがあれは、一応陽性
食品だから、体力がつくということになってるね。あれは正確な言い方を
するならば、エネルギーを上げるから元気になったように見えるだけであっ
て、実は体力は付かない、ね。

じゃあ、ジャガイモはどうだと思いますか。聞いてみようかな。どうで
すか、ジャガイモ。

（信徒）体を冷やします。

(尊師) はい。そうですね、それは。体を冷やします。他にどういう性質があると思いますか。

じゃあ、どうですか。

(信徒) 体を冷やすから……。

(尊師) あの、だいたい四つのパートがあるよね。体を暖める、冷やす。体力をつける、あの毒を出すと。それから、エネルギーを上昇させる、下降させる。それから、エネルギーを、何て言うかな、収斂させる、つまりとどめる、それから拡散させると。

(信徒) エネルギーを上昇させます。

(尊師) うん、そうですね。あれはまあ平に近いんだけどもね、一応は根っこの部分になるから上昇させると考えてもいいでしょうね。

(信徒) 体力はつけるんじゃないんですか。

（尊師）ええ、体力はつけますね。
（信徒）毒も発するんですか。
（尊師）うーん。毒ですか。
（信徒）皮の部分と実の部分の性質が違うように。
（尊師）いや、それは正しい。しかし、全体的に一応見とかないと、あのう、何ていうのかな、その細胞の一つ一つを見たら、確かに皮の部分は毒を出します。で、実の部分は体力をつけると。これは正しいんだけども、ジャガイモはジャガイモとしての性質があるわけですね。で、ジャガイモはジャガイモとしての性質においては、あくまでもその体力をつけるというふうにとらえていいと思います。というのは、皮の部分のその全体比と、それから中身の全体比とで比較すると、中身の方がやっぱり多いでしょう、当然。

だから、性質というものは、プラス・マイナスで働くんですね。だから、例えばここに毒を出すものがあって、ここに体力をつけるものがあって、これは打ち消し合うんです。だから、総量で決まりますから、一応これは体力をつけるということにしましょう。

じゃあ、ニンジンはどうかな。ニンジンはどう思いますか。

（信徒）体力をつける。

（尊師）ええ、そうですね。ニンジンは体力をつけます。これはコキ薬といいましてね、消化を特に強めるんですね、このニンジンというのは。エネルギーを上昇させますか、下降させますか。

（信徒）上昇させます。

（尊師）そうです。原則で考えたらいいね。根っこだから上昇させるわけですね。体力をつける、エネルギーを上昇させる、それからニンジンは体

をあっためます、これは若干ね。そして、収斂の作用があります。汗を出さない作用があります。

◉肉では羊がいい

ね、こういう形で見てくると、いいですか、食事というものは、それほど難しくないよね。

じゃあ、動物性食品はどう思いますか。菜食ではあれはいけないといってるんだけど、まあ東洋の食養ではそうはいってないんだね。わたしは肉は嫌いだけども。

一番体力をつける、元気を出すものは何だと思いますか、肉の中で。肉の王様。これは羊の肉なんだ。羊肉が一番。今市販されているものの中ではですよ。まあ、そうじゃない象の肉とか、あるいはね、あの野羊とか、

ヤクの肉とか、もっとエネルギーを強めますけども。

次はどうかな。

(信徒) 鶏(とり)ですか。

(尊師) 鶏は何番目に来ると思いますか。

(信徒) 牛肉。

(尊師) 牛肉。順番としては、羊、それから豚、そして鶏肉、そして牛なんだね、順番としてはね。魚はね、多種多様あるから、まあ一概には言えない。

しかし、一つの原則としてですよ、臓物を食べなさいという原則があるんだよ、ね。これは、外側の肉を食べるよりも、臓物を食べた方が、例えばそのホルモンのエネルギーとか、あるいはまあ何ていうのかな、消化酵素の働きを良くするとか、そういう意味においても非常にエネルギーを強

めてくれるんだね。先ほど言った、エネルギーを蓄える、強める働きがあるんです。だから、臓物をできるだけ食べた方がいいと。

で、わざわざね、中国の漢方医学の一派ではね、臓物療法の一派があるんだよ。それは、例えば肝臓の悪い人は、例えば、牛の肝臓、一番いいのは鳥の肝臓だけどもね、鳥の肝臓をサッと沸騰したお湯で消毒するんだ。それを取って、しょうが醤油につけて食べるんだね。例えば精力の弱い人は、腎臓をね、同じようにサッとゆでてね、まあ腎臓というのはマメといってるんだけど、そのマメをサッとゆでて、しょうが醤油で食べるとかね。そこの部分が本当は一番わたしたちに恩恵があるわけだ。

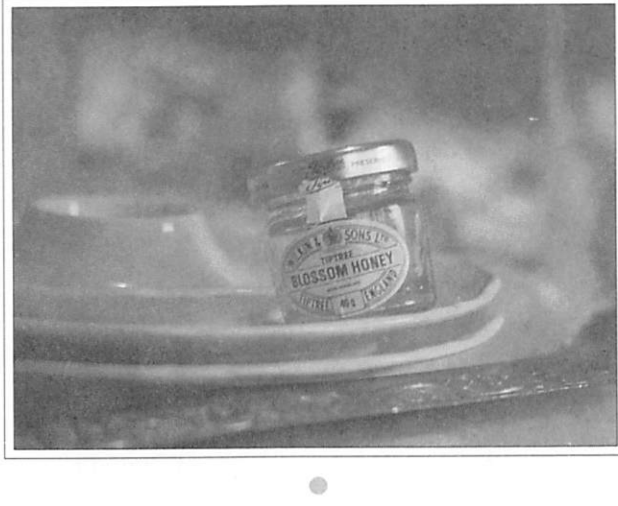
ところが、現代ではね、その部分というのは添加物の宝庫といわれてるから、一概には言えないんだけどね、いいとは。しかし、その肉の働き――これは魚も同じだよ、魚も内臓が一番いいわけだから――その働きという

のはきちんと理解しておくと、わたしたちがちょっと病気したとき、ちょっと困ったとき、大きなね、恩恵をわたしたちに与えてくれます。いいかな。

尊師、麻原彰晃が斬る！

食と心を語る

「食べ物とエネルギーと心の働き」



DIET AND MIND

◉肉体は何からできているか

今日は、ちょっと変わった話をしたいと考えます。それは、わたしたちが食べる食物と、ね、それからわたしたちの心の働きとの関係について、少し皆さんに理解していただきたいと考えたんでね、今日は、そのことについて話したいと思う。

まず、わたしたちの肉体というものは、地・水・火・風、それから空間という五つの要素から成り立っていると。これはどういうことかというと、地元素はわたしたちのこの肉、個体的な要素を表わしていると。水元素はわたしたちの血液、あるいは精液、あるいは髄液といったね、あるいはリンパ液といった液体成分を表わしていると。そして、火元素はわたしたちの体温、あるいは消化の炎といったね、熱の要素を表わしていると。そして、風元素というものは何かというと、わたしたちの生命エネルギー、活

力だね、あるいは、仙道やヨーガでいうところの〝気〟、これを表わしているると。あるいは、呼吸を表わしていると。そして、空元素は、空間を表わしているといわれています。

◉心と体をコントロールするには？

でだ、そのわたしたちのこの五大エレメントを浄化・強化して、そして、幸福な生き方、あるいは解脱に向かうためには、一体どのようにしたらいいだろうかと考えるとね、いいかな、まず、わたしたちの飲む物、あるいは食べる物にはね、偏向があると。偏向というのは何かというと、一つの方向性、ベクトルだね。ベクトルが存在していると。

例えば、ね、牛乳を飲むと下痢をすると。下痢をするのはなぜ下痢をするのかというと、「降(こう)」つまり、気を下げるね、わたしたちの心を低下さ

せる働きがあると、ね。例えば、お酒を飲むと、「昇(しょう)」わたしたちを酔っぱらわせるようなね、そういう働きがあると。例えば、ね、ご飯を食べると、わたしたちの体力を補ってくれる、つまり、これは「補性(ほせい)」といわれているね、エネルギーを補う働きがあると。例えば、ハト麦を食べるとわたしたちの肌は綺麗になって、ね、浄化が起きる。つまり、これを「瀉(しゃ)」といっているわけだけれどね、毒を瀉す、毒を排斥する働きがあると。

まあ、このような形で、一般的には、あと、体をあったためる食物、体を冷やす食物、ね、例えば、小麦などは体を冷やすと、ね。あるいは、肉ね、特に羊の肉などは体をあったためるということになっていると、ね。

◉食物の傾向を決めるものは?

では一体、こういう性質というものはなぜ起きるのだろうかと。食養を

行なっている者はそれについて言及していない。ただ単に、エネルギーを上昇させるだとか、下降させるだとか、そういう現象面だけしかとらえていないけど、わたしたちは、カルマの理論を深めなければならないわたしたちにはね、そこをもっときちんと理解する必要がある。

一体、何の働きによってそれが起きるのかと。例えば、リンゴというものは、ね、一般的には「涼(りょう)」といって体を涼しくする働きがあるわけだけれども、ね、地方によっては、リンゴを食べることによって体をあっためる働きのあるリンゴもあると。これは一体、なぜ起きるんだと。それはすべて、心の発するヴァイブレーションによって起きるんだと。わたしは、そう考えているわけだね。

◉心の大切さ——効果的なアストラル・テレポーター

「では麻原、なぜそれを証明できるんだ」といったら、ね、例えば今、あなた方が飲んだ、ね、原型は豆乳です。それを少し工夫してあるわけだけど。普通、豆乳を飲むと「降(こう)」の働きがあるんだね。降というのは気を下げます。豆乳が例えば発酵したとしても気を下げます。しかし、それを、ね、「アストラル・テレポーター」によってエネルギーを込めることによって、ね、昇(しょう)の働き、そして、気分を良くしてくれるわけだね。

どうだみんな反応は？　真面目に修行してる人は何らかを感じてると思うんだけど、どうだ？　満生さん、熱くなってきたでしょう。ラーフラ、どうだ。

たかだか、ね、豆乳コップ半分。これをあなた方が飲んだだけで気分が変わるわけだよね。気分の重たい人は、例えばコップ二杯、三杯とこれを

飲むことによって、気分がハイになるだろう。そして、修行に対する意欲も出てくるだろう。これはなぜかといったら、この豆乳の、ね、中性子、あるいは電子の部分にマントラのエネルギーによって何らかの変化が起き、そして、わたしの心の状態というもの、ね、いつも明るく豊かな状態、そして絶えずトゥモの起きている状態というものをあなた方に伝播することができたわけだ。

ということは、他の食物も同じだね。一般的に害といわれているものもだ、修法の仕方によっては、エネルギーの込め方によってはその性質が変わると。

じゃ、何が最も大切なんだと、ね。そうなると、例えば一般的な食事の場合は、その料理をする人の心の働き、例えば豊かな心の働きであるか、例えば、ね、粗野な心の働きであるか。例えば、ね、絶えず、上昇、グル、

あるいはシヴァ神、あるいは仏陀たちを意識して料理を作っているか。例えば、そうではなくて性欲、食欲に翻弄されて、ね、食事を作っているかということが、エネルギーの、ね、どういうエネルギーを、ね、わたしたちが感じるかと、すごく密接な関係になってくるわけだね。

◉コーヒー、アルコール=借り物のエネルギー

わたしがこういう話をすると、こういう疑問が出てくるかも知れない。「いや、しかし麻原、そう言っても、例えばコーヒー、あるいはアルコールを飲むと、一時的にハイになるではないか」と。まず、コーヒーの説明からするならば、コーヒーは、右の気道を冷やします。いいですか、ピンガラ管を冷やす。そして、特に肝臓の部分、ここに冷えが集中します、ね。肝臓というのは、わたしたちの意志を強固にするところだ。じゃ、なぜ肝臓

の部分が冷えるかというと、コーヒーを飲んでいるとき、一時的に意志が強くなったような、意識がはっきりなったような状態になるよね。これはわかるか、どうだ。目がパッチリさえるだろう、どうだ。さえないか？さえるよね。

で、これは、借りてきたわけだよ。何を借りてきたかというと、コーヒーの働きによって、いいか、コーヒーの働きによって意志を強くするという、わたしたちに借りができたわけだ。それは次にどういう影響を与えるかというと、わたしたちの意志を司っている肝臓の部分を冷やすことによって、その使ったエネルギーだけを、エネルギーの分だけ、ね、逆にわたしたちの、ね、コーヒーを飲んでいないときの意志の力を弱らせるという働き、それが生じるわけだ。

じゃ、なぜ証明できるんだと。それはわたしが成就者であるから証明で

きるということが一ついえよう。もう一つは、ね、コーヒーを飲んだ後のあなた方の疲労、それから虚脱感、それから精神集中の弱さを考えてみたらわかろうと。

お酒はどうだといったら、お酒も同じだね。お酒も同じように体を、ね、肝臓の部分を冷やすんだよ。だから、肝炎、あるいは肝硬変という形になる。あるいは肝臓ガンという形になるわけだね。

つまり、わたしたちを一時的に、ね、豊かにしてくれるもの、ハイにしてくれるものは、すべて肝臓機能に貸しを作り、わたしたちを喜ばせ、その薬物が切れた瞬間、わたしたちはその借金を返さなければならないという形になるわけだ。

食と心を語る



◉ソーマを飲もう！

では、この〝ソーマ〟はどうだと。ソーマというのは今日飲んだ飲み物ね。わたしはこれをソーマと言ってるわけだけど、このソーマはどうだと。これはそうではないんだね、逆なんだね、これは。前もってマントラによって貸しを作っておいて、ね、そして、ね、この中の酵母菌、あるいは他の成分がそれを喜ぶと。そして、喜んだものをわたしたちが飲むことによって、わたしたちも喜ぶと。だから、一切借りがないんだね。初めに貸しを作って、その貸した分を返してもらうわけだから、借りがないと。

そして、これは、特殊なマントラが込められているから、ね、その上にナーダの浄化にもつながる、ね。ナーダの浄化が進むということは、わたしたちを本当の意味で豊かにしてくれるし、幸福にしてくれると、ね。ナーダというのはわかるよね。イダー、ピンガラ、スシュムナーという三つの

管を中心とした、ね、わたしたちの体を、ね、支えている、支配している、ね、守っている管だ。これが浄化されると。

◉浄化されるエネルギー管

じゃ、それはどうしてそう言えるんだと。例えばアルコールを飲んでもクンダリニーは上がらないと。熱は上がるかもしれないけれど、「風のクンダリニー」は上がらないと、ね。そして、風のクンダリニーというのはわたしたちのナーダを浄化すると。ところが、このソーマを飲むことによって、わたしたちの三つの管は浄化されるわけだね。風のクンダリニーが上がるわけだ。だから、これはアルコールや、あるいはカフェインとは違うということがいえると。

じゃあ、他のドラッグはどうだと。例えば、ね、LSD、マリファナ、

ね、あるいはシンナー、ね、あるいはヘロイン、こういうものはどうだというと、同じように肝を、肝臓をね、冷やすだけでなくて、マニプーラ、スヴァディスターナまで冷やしてしまうと。じゃ、なぜ麻原そう言い切れるんだというと、わたしはたくさんのそういう体験者を見てきたからと。そして、そういう人たちはチャクラのあちこちにけがれを生じさしているからと、ね。

ところが、このソーマ、あるいはあなた方が食べている丹ね、これは違うよと。これは逆にあなた方の管を浄化し、あなた方を高い世界に引き上げてくれるんだよと。

◉心を込めた食事が大切

それから、もう一つ。もし、今の食事班の人たちが本当に心を込めて、

「自分はみんなのために本当に食事を作りたいんだ」と、ね、「みんなが好きで好きでたまらない」と、「これを食べてもらって本当に修行を進めてほしいな」という気持ちで、もし食事を作ることができたならばだ、それはあなた方の修行というものは一層進むことになるだろうし、また、料理を作っている人たちも悟りや解脱に対して、一歩、二歩、三歩とね、他の人よりも早く進むことができるようになるだろう。先程も言ったとおり、それはその料理をしている人たちの心の働きが、オウム食に乗り移るからだね。

デリケートなわたしの周りの者たちは、こう言う。「同じ材料、同じ水を使っているのにオウム食の味が違う」と。これは感じた人たちもいるんじゃないか、どうだ？　いるよね。どうだ？　日によって味が違うんじゃないか。まあ、感じない人は感じないでいい。感じる人はそれだけ進んでい

るってことだ。それは、そのときそのとき作っている、料理をしている人たちの心がそのオウム食に現われるからだ。

わたしは、心のこもっていない食事というのは食べない。本当にわたしを愛し、そして、尽くしてくれる人のものしか食べない。それは、もう、すぐ食べればわかる。「これは、例えば帰依ができてるな」とか、「これは帰依ができてないな」とか、「これは義務で作ってるな」とか、あるいは「これは心から食べてほしいなと思って作ってるな」とわかるよ。そして、それはね、わたしの体に影響を与える。いい心の働きは、ね、すごく活発な動きができるようになるし、悪い心の働きは、わたしの肉体の動きを低下させる。

◉すべては心の現われ

じゃだ、この道場はどうだと。これだけの人がここに集まり全力で修行している。ということは、この道場を作った人たちがいかに一生懸命、ね、少なくとも、四分の三以上の人はだよ、ね、愛を込めて、あるいは自分の修行だと思って作ったのがわかるね。その現われとして、ここにこれだけの人がいて、朝から晩までの、ね、修行をなすことができる、ね。

「すべては心の現われ」である。いいね、これを念頭に置こう。そして、食品の性質も大切であるけれども、それよりももっと大切なのは、料理をするときの気持ち、ね、あるいは、どういう思いを込めて作るか、ね、そういう条件で見るならばだ、ここにあるソーマ、これはわたしがあなた方の心を豊かにしたいと、そして、一日も早く解脱してほしいなと思う気持ちでCSI（コスミック・サイエンス・インスティテュート）と研究して

いるもんです。だから、あなた方にとって、ね、最高の飲み物になると思う。これがうまくいったならば、明日から、あるいはあさってから、あなた方に毎日供給できるんじゃないかなと考えている。どうだ。

（拍手）

拍手が出たというのは……。よし。はい、わたしのお願いは、一日でも早く心を豊かにしてもらって、そして、一日も早く成就し、すべての環境から解放され、すべての苦悩から解放され、幸福になってほしいと思います。よし、では頑張って修行しようね。

尊師、麻原彰晃が斬る！

輪廻転生の仕組みを解く！

「感覚からの解放――開かれる真理の世界」



REINCARNATION

◉五感の誘惑と迷妄の世界

わたしたちは、障害のない限り目を持ち、耳を持ち、そして、鼻を持ち、味覚を持ち、そして、触覚を持っています。そして、一体、この五感に対して、仏教ではどのような考え方を持っているのか。つまり、五感に対してどのような考え方を持っているのか、今日はこれについて話そうかと思います。

まず、視覚について言うならば、釈迦牟尼はこう言ってらっしゃるね。

「弟子たちよ、美しい女性が目の前を通ったとしても、それを見てはならない。」

と。しかしこれは、すごく抽象的な表現なんだよね。これを密教では、もっと具体的にいっている。ここに灯火がある、炎があるとしよう。そして、虫たちは、その炎のあまりの美しさに見とれてしまうとしよう。そうする

とどうなるかな。その灯火に徐々に徐々に近付いて、気付いたときには焦げて死んでいるんだよ。それほどまでに、視覚の魅惑というものは怖いですよと。そして、視覚というものは、わたしたちの心というものを迷妄に引きずり込んでくれるんですよ、ということを密教ではいってるわけだ。

では、聴覚はどうだ。これも密教では同じように、美しい笛の音に耳を傾けた鹿は、猟師の鉄砲で撃ち殺されてしまうといっている。もし、美しい笛の音に心が執着し、忘我の状態をつくらないとしたならば、猟師からの狙撃を避けることができたはずじゃないかと、そういってるわけだね、密教では。

これと同じ問いで、嗅覚についてはどうだ。みんな知ってるか。以前雑誌で、女性にもてるようになる匂いの素とかあったよね。香水なんかがその例だと思うね。フランスの香水——まあこれは真実とか真実じゃないと

か言われているけども――フランス人は風呂に入らない代わりに香水を塗るんだと。そして結局、匂いに幻惑されて、「あ！　しまった、お付き合いしてしまった」と思ったときにはもう、後の祭り。両手両足を奥さんに縛られていたということもあるわけだね。密教では同じように、美しい花の香りに翻弄された蜂は、蜂を食う花に食われて死んでしまうというたとえがあります。そして、味覚、触覚についても同じようなたとえがあるわけだ。

この密教のね、たとえは何を表わしているのか。これはわたしたちが五感に執着している間は、真実は見えないんだよということを表現しているわけだ。わかりますか。真実に対して、もし目を見開きたければ、この五感を通り越さなければならない。「いや、そんなことはない。人生は、五感を満足させて生きればいいんだ」という人がいるかもしれない。ま、そ

の人はそういう生き方をすればいい。しかし、その五感に執着している限り、時というものはどんどん過ぎ去り、死神の大群は必ずあなた方を襲うことになるだろう。

◉外的五感と内的五感、チャクラとの対応関係

では、オウム真理教では一体どのようにして、その五感から解放された状態にあなた方を持っていこうかと考えていると思うか。それからもう一つ、五感を超越した世界があるんだということを、あなた方にどのように証明しようとしていると思うか。

アストラル音楽というものがあるよね。このアストラル音楽というものは、実際はナーダ音から作られた音楽なんだよ。ナーダ音というのは何かというと、すべての人がある段階に来ると、耳の中で絶えず鳴り響いてい

る——もちろんその人の精神的なステージとか、霊的なステージによって音は違うわけだけども——絶えず鳴り響いてる音があるんだ。そして、低い次元から高い次元に行けば、徐々に徐々に曲になってくる。そして一曲になるんだね、最後には。その音楽がアストラル音楽です。これはわたしたちの五感では聞き取ることはできないんだ。完全に耳に栓をして、外界の音をシャットアウトした段階で聞こえる音なんだね。

で、わたしたちには内的な五感と、外的な五感というものがあるわけだ。内的五感というのは何かというと、今言った、例えばナーダ音。これは内的な耳に当たるよね。そして、天眼。透視能力ね、これは内的な目に当たる。同じように、内的な嗅覚、そして、内的味覚、内的触覚というものが存在しているんだ。それは、チァクラと対応していたよね。

まず、クンダリニー覚醒に最も必要なムーラダーラ・チァクラは地元素

と関係があり、この地元素は匂い、嗅覚と関係があると。鼻と関係があるわけだな。だから、極端な言い方をすればだよ、両鼻が生まれつき詰まっていて、全く匂いがないという人は、シャクティーパットでもやらない限り、クンダリニーは覚醒しないことになるよね。

同じようにスヴァディスターナ・チァクラは水元素と関係がある。これは、味覚と関係があったよね。そして、マニプーラ・チァクラは、火元素と関係があり、これは視覚と関係があったよね。アナハタ・チァクラは風元素、人体エネルギーと関係があり、そして、触覚と関係があったよね。そして、ヴィシュッダ・チァクラはアストラル、空元素と関係があり、そして、音、聴覚と関係があったよね。

◉執着と転生のカルマ――いかにして高い世界へ行くか

この関係を踏まえた上で、これを利用して、あなた方の外的な五感ではなく、内的な五感での、引っかかりは一体どこだと解析する方法があるんだよ。これは何かというと、例えば、ムーラダーラ・チァクラで引っかかっている人は地獄、餓鬼のカルマを持っている。そして、スヴァディスターナ・チァクラで引っかかっている人は動物、人間のカルマを持っていると。マニプーラ・チァクラで引っかかっている人は阿修羅、天界のカルマを持っていると。で、アナハタ・チァクラ、ヴィシュッダ・チァクラというのは、アストラルと関係があると。

ここで、問題なのは、この関係式については、去年も説いたわけだけども、もう一歩進めてだよ、例えば、匂いで引っかかっている人は、地獄、餓鬼のカルマと関係がある。例えば、いい匂いがしてきたと。ああ、うま



そうだな、食いたいなと思って心が動く人は地獄、餓鬼のカルマを持っているんだと。どうですか。例えば、サンマがここにあって、こうやって扇がれていて、その匂いにフラフラとなりませんか。

同じように、今度は味覚ね。味に執着している人は動物、人間のカルマを持っているんだね。

そして、男も女も、美形だけを追っかけている人は阿修羅と天界のカルマを持っているんだよ。

で、わたしは匂いにも興味がないと、味にも興味がないと、視覚的なものにも興味がないと、ただわたしは触覚だけ、なでられる感覚にしか興味がないんだと。こういう人は次はアストラルだよ。だからレベルが高いんだよ。

もう、なでられることにも興味がない、わたしは音さえあればいいんだ

という人はアストラルでも最高の世界に行くだろうね。ほらほら、また秘儀を公開したよ。あなた方はどれに興味がありますか。

じゃ、まず地獄のカルマを持っていると思う人は手を挙げてみてください、わたしは匂いに執着していると思う人――（27人手を挙げる）。

じゃあ、次は味に執着している人。これは人間界だから一番多いんじゃないかな――（67人）。

じゃ次は視覚。美しいものに執着している人――（86人）。すごいね、これは。さすがオウムは違うなあ。

じゃ次は触覚。なでられることに執着している人――（19人）。ああ、この人はすごいね、カルマが。最後に音楽に執着している人――（30人）。

じゃあ、次のアンケートいきましょう。いや、大切なことだよ。今のは何回でも選べたけど、今の五つの要素のうち一つだけ。いいですか、よー

く考えて。地獄のカルマを持っていても自信を持って構わないからね、そんなのは。今から切っていけばいいんだから。タマスで隠さないように。はい、じゃあ、匂いに執着している人——(0人)。すごいなあ。じゃ、地獄に生まれ変わる人いないいんだ。じゃ、地獄への道を説く必要はないね。じゃあ、味に執着している人。食い物があればという人——(34人)。じゃあ、次は美しいものに執着している人。視覚だね——(52人)。じゃあ、なでられるというか、触覚に執着している人は——(6人)。じゃ、最後は音楽。音に執着している人は——(7人)。

じゃ、例えばだよ、今のデータはあまりあてにならないけども、それで、ここにムーラダーラ・チァクラがあって、匂いと言ったね。ところがここに二つの世界があるわけだ。地獄と餓鬼という。これは、どういうことで決められると思うか。ま、匂いの人はいなかったけれども、まず、マイル

ド な匂いが好きな人、刺激の柔らかい、あまり刺激のない匂いが好きな人。これは餓鬼だと思ってください。そして、強い刺激を好む人。これは地獄だと思ってください。

そして、味も同じだね。濃い味を好む人は動物的だと。薄味を好む人は人間的であると、人間界のレベルであると。だってそうでしょ、動物の食ってるものって大体味が濃いでしょう、どうですかそれは。例えば鶏を生飲みするとか。ね。どうですか。

同じように、例えばね、美しいものでも、少しアクの強いタイプの美しい人を好きな人と、柔らかいタイプの美しい人を好きな人、ちょっと、ボーッとした感じのね、それによって神々と阿修羅は分かれるんだよ。いいですか。

この六つさえ押さえておけば、あなた方が六道に生まれ変わっても、ま

あ、できるだけ高い世界に生まれ変わることは間違いない。絶えず、ボーッとした美しい人を追いかけていればいい。冗談を言ってるんじゃないよ。これは「ポア・コース」だからね。ポアで、できるだけ高い世界に行ける条件を呈示しているわけだから。わかりましたか。

◉イニシエーション――各元素を浄化

で、こういう簡単なことだけど、まずは知りなさいよ。知った上で、次に出てくるのがイニシエーションなんだね。

まず、地元素を浄化するためには、本当の意味での神秘の匂いを嗅がなきゃならない。神聖な匂いというものを。それによってのみ、地元素を浄化できます。水元素については、味覚。まあ、オウムでは甘露水があるよね。甘露水で水元素を浄化する。そして、火元素については、護摩見もあ

るけども、護摩見だけではなくて、こういうグヤサマジャみたいなマンダラね、こういう美しいものを見て、心を浄化しなさいよ。それから、触覚については、グルがさすると。あるいは大師方がさすると。これによって浄化される。そして、あとはグルの唱えるマントラ、あるいはアストラル音楽によって、あなた方の空元素は浄化される。ほら、オウムは水、火、風、空と、一応四つ持っているね。

では、地元素は何だと。地元素はいよいよ登場しましたプルシャ型たて箱だ。これで一応五つそろった。まあ、火元素についてはまだいろいろ工夫しているんだけどね。あなた方が即浄化されるものをね。じゃあ、プルシャは何に当たるんだといったら、これは風に当たるよね。わたしのエネルギーを込めているわけだから。

そして、これを押さえ切ったならば、これを完璧に浄化し切ったならば、

あなた方はここにいらっしゃるシヴァ神、グヤサマジャと同体になります。案外簡単だね。プルシャを九個付けている人いるけど、この人はすごく早いだろうと思うね、浄化が。

◉アストラル音楽——音の影響力

もう一つね、今日は「ポア・セミナー」でありながらちょっと高度な話も少し交えているけども、最後のね、空について少し話そうと考えている。どういう音が聞こえたら、しめたと思わなきゃならないか。まあ、オウムの方は「狂気の集中修行」に二百名以上も出るような方々だからね、ナーダ音を聞くようになるのもすごく早いと思うわけだけども、まず、上昇の音が聞こえたら、あ、自分はステージが上がっているんだと考えなさいよ、瞑想中に。それから、例えばアストラル音楽で「トゥントゥーン、トゥン

トゥーン(アストラルへの旅の一節)」ってね、こういう音が聞こえたなら、少しうぬぼれているなと考えてください。

これは一つの評価です。評価というのはどういうことかというと、わたしだちは無意識の音の世界ではアストラルの音に左右されているんだよ。魔境に入る人は大体ジャズとかポップスとか好きなんだよ。潜在意識が出てくるよね。そうすると、ある人は演歌調になると。ある人はポップス調になって、フワフワしてくる。ある人はジャズで暗くなる。スタッフになって魔境に入ってつぶれていくのは、大体そういう人が多い。だからジャズの好きな人は、いったん心を浄化した後に、クラシックやアストラル音楽を聴いて、「ああ、いいなあ」と思って、スタッフになってください。それほど、音というのは影響するんだ。それは視覚的なものも同じ。この五大元素は心の働きによって表現されるからね。

あなた方はどういう音が好きかな。普通の人の場合はある程度上がったら、下がって落ち着くんです。例えば「光を超えて」がそうですね。この上下は六道を輪廻しているんです、これは。いや、本当にそういうことなんです。ところがそうじゃなくて、最後のタントラヤーナのプロセスに入った人間は、ずーっと連続して上がっていくんだよ、ナーダ音が。だから、これがね、完全な上昇の道に入ってるかどうかの違いです。「光を超えて」が好きな人というのは、今生で、まあそうだね、大師のどれぐらいのレベルまでいくか。クンダリニー・ヨーガくらいまでかな。

わたしが一番好きなのは「ロード・シヴァ」なんだよ。あれは完全に悟りだね。みんなわかるよ、それは。というのはどういうことかというと、「ロード・シヴァ」は、すごく単調にできているよね。この曲には一つ一つ意味があるんですよ。すごく深い意味が。これは一定の音の幅があって、



それから出ていないと思いませんか。わたしは、今出ている曲の中で一番好きですね、この「ロード・シヴァ」が。ま、タイトルも好きなんだけどね。

結局悟りというのは、安定していると、一番、音の世界でもね。そうではなくてやはり、低い世界からガーンと上がっていく場合は、先程の「光を超えて」とかね、あるいはね、ちょっと瞑想曲に近いのが「甘露」ですね。でもあれは、少し瞑想に熟達したら、ちょっときついんじゃないか、音が。水滴の「ポシャ、ポシャ」という音がありますね、曲の中に。あの音が高すぎるんです。何を言いたいかというと、それほど音は影響があるんです。音自体が。同じように、触覚も、視覚も、味覚も、嗅覚も影響があるんです。

◉大乗の修行――五感をプラスに働かせる

わたしたちがその五感から離れ、真実の内的五感を使い始めたときに、初めてそして、最後には、その内的五感すら影響されなくなったときに、仏陀ということができるんだよ。そんなに難しくないね、そうすると。簡単だよね。こうやって、まず視覚にこだわらなければいいと。聴覚にこだわらなければいいと。味覚にこだわらなければいいと。嗅覚にこだわらなければいいと。触覚にこだわらなければいいと。簡単なことだね、これはね。で、これがだ、「無眼耳鼻舌身意」なんだ。ね、単純なことだ。それと対応して「無色声香味触法」ね。その意味合いというのはチァクラと関係があったんだということ。これでわかったよね。

そして、逆の言い方をすれば、マイナス要素があるということは、当然プラス要素があるわけで、大乗の修行をやる場合には、その五感を逆にプ

ラスに働かせようとすればいいわけです。でしょ。
つまり、美しいものを見て執着するから現世に引っ張りこまれておかしくなるわけだから、例えばこういう、グヤサマジャみたいな美しいものを見て、逆に執着して修行に没頭しようじゃないか。甘露水を飲んで、味覚を浄化しようじゃないか。ね。これが大乗なんだ。それをもっとより強く使いこなしているのがタントラ乗だね、タントラヤーナといわれている。いいですか。
ですからオウムでは「無眼耳鼻舌身意」ではないんだね。「無色声香味触法」ではないんだね、これはね。それを使いこなそうと。だから、般若心経を唱えちゃだめだよ。一所懸命イニシエーションを受けながら、「無眼耳鼻舌身意。無色声香味触法。」これやってたらね、イニシエーションの意味合いが消えてしまうから。あれは小乗の経典だからね。

じゃあ最後に。今後ともね、オウムは、いろんなイニシエーションの方法を、ま、これは実際わたしが作り出しているわけだけども、作り上げていきたいと考えている。

それは、現代というものはわたしたちの五感を惑わすたくさんの良からぬものがあるわけだ。そして、それに打ち勝つためには、一方にマイナスがあって、しかも現世的に生きる以上、もう一方でプラスの、五感に良い影響を与えるものを与えなきゃならない。

そして、それをミックスしたとき、ゼロになったならば、完璧に小乗の悟りが訪れると。プラスで、どんどんマイナスを打ち消し、プラスへどんどん、徳を集積した段階で大乗のステージに入っていくということだね。

それを押さえましょう。

そして、幸福になるためには、このマイナスの要素を打ち消し、プラス

の要素が完全にマイナスの要素を越したときに、あなた方には五感すべてにおいて大変幸福な状態が訪れてくるだろう、これをわたしが約束しましょう。

麻原彰晃尊師の本 collection

ここに真理がある！
オウム出版



生死を超える

改訂版

死を超越した魂の自由を高らかに謳歌

B6判／1854円

激しい修行の末に死後の世界を経験し、ついに解脱を得た著者が、だれも示すことのできなかった「解脱」の真実の姿を浮き彫りにする不朽の名著。これなくして精神世界は語れない。



超能力・秘密のカリキュラム／健康編

改訂版

クリヤ・ヨーガの秘法が甦った！

B6判／1100円

ヒマラヤに伝わる肉体浄化の秘法を公開して大反響を呼んだ本書が、新たに体験談も加わり、改訂版となって再登場。アレルギー性鼻炎から癌・エイズまで、あらゆる病気を撃退するヨーガの技法が満載！



イニシエーション

悟り――覚者の智慧が光を放つ

B6判／2163円

本来、選び抜かれた弟子にしか伝授されない秘儀の数々を惜しみなく公開！ 悟りのプロセス、近未来の予言、そして豊富な体験談……。最高の叡智に達した著者によって説かれる真理に、魂は震撼する。



マハーヤーナ・スートラ

解脱――その真実の道筋が語られた！

B6判／3090円

解脱を果たし、悟りを得、絶対的な真理に到達した著者によって、大乗仏教・ヨーガの全貌が明かされた！ さらに、史上稀に見る解脱の体験談も同時に掲載。精神世界史上不滅の金字塔。



滅亡の日

麻原彰晃「黙示録大預言」の秘密のベールを剥ぐ

B6判／1854円

その難解さゆえに人々の関心を集めてきた『ヨハネの黙示録』。究極の智慧に到達した著者が､その謎に挑戦！ 獣の数字666、そしてハルマゲドン……。そこに描かれていたのは人類破滅のシナリオだった！



滅亡から虚空へ（続・滅亡の日）

麻原彰晃の「黙示録大預言」完全解読

B6判／1900円

前著『滅亡の日』で開示されなかった、大破局の後に来る新たなる戦いとは？ だれにも解けなかった預言書のすべてが、今初めて明らかにされる。『ヨハネの黙示録』衝撃の全貌！



原始仏典講義一

今､覚者の限りない叡智がここに甦る！

A5判／2500円

いにしえの最終解脱者が説いた法の真髄が現代の最終解脱者によって、ついに明らかになった。釈迦牟尼の教義の根幹をなす『阿含経』『南伝大蔵経』の二大経典を、麻原尊師が鋭く解析！



マハーヤーナ・スートラPART2

実践するための生きた経典

B6判／2100円

お経は読むためのものではない。読んで、考え、実践するためのものである。『南伝大蔵経』から選び抜かれた経典と尊師説法、そして体験談が、絶対的な幸福への道筋を指し示す。



麻原彰晃の世界 第一巻

幸福に至る四つの預流支

B6判／2500円

人はなぜ、麻原彰晃を尊師と仰ぎ、彼のもとに集まるのか？ 現代に甦った覚者が今、真理の灯明で照らした"最高の道"を指し示す。尊師説法集「麻原彰晃の世界」。この本は、あなたの心を必ず苦悩から開放する。

●ご注文は書店にてお願いします。直接弊社にお申し込みの場合は下記まで。（送料各300円）

●オウム出版　〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17 電話：03（3439）6043／郵便振替：東京2-109325

究極の真理はここに！
オウム真理教

二千五百年の時を経て甦った真理が、今ここにある。
幸福な人生への懸け橋は渡された。魂の飛翔への道筋は示された。
究極の真理をつかむか否かは、あなた次第だ！

日本でただ一人の最終解脱者、麻原彰晃尊師が主宰する「オウム真理教」は、あなたに、●病苦からの解放　●この世での幸福　●より良い転生　●悟り、解脱をお約束します。

始めよう！　真理の実践
◎入信されたすべての方に……
◆道場の利用
既にご利用いただいている富士山総本部、東京本部、大阪支部、さらにニュー

ヨーク支部、ボン支部等、日本全国、世界各地の神聖な道場をご利用いただけます。

◆月刊書籍・テープの無料進呈

オウム真理教の最新情報をヴィジュアルに伝える書籍『マハーヤーナ』（麻原尊師監修）と共に、生の尊師説法と仏典『南伝大蔵経』を現代的にドラマ化したものを収録したカセット・テープを月二回無料でお送りします（定価三千円）。なお、代わりに、テープによる『良い子の真理』（〇～六歳向け）『小学生の真理』（七～十二歳向け）『青年真理』（十二～十八歳向け）『声の真理の芽』（ご老人・目の不自由な方向け）を（ ）内に相当する方にお届けすることもできます。

◆資料請求について

詳細について知りたいとお望みの方は、資料請求券を添付したハガキ、または電話にて、巻末の「各道場のご案内」をご参照の上、最寄りの本部・支部道場までお申し込みください。詳しい入信案内および申込書をお送りいたします。

リトリ線

原彰晃の世界PART2
資料請求券

気軽に読めて、ためになる

月刊『えんじょい・はぴねす』ENJOY HAPPINESS

「オウム真理教って何？」
「ちょっとのぞいてみたいな。」
「でも、宗教はいまいち……」
と足踏みしてしまう——。
そんなあなたにお勧めの新感覚の月刊誌。

内容は——
●「光を超えて——えんじょい・はぴねす」——Voice of Buddha
仕事・家庭・恋愛・社会・人生、その他の身近な話題について、オウム真理教開祖、麻原尊師が鮮やかに説く

●「宗教は一つの道」——Special Lecture
儒教・キリスト教・仏教などの各宗教を、麻原尊師が比較・解説される特別講義
●「よりよい人生を送るために」——Love and Truth
悩めるあなたの心を癒す、ヤソーダラー正悟師の心温まるエッセイ
●「真理を科学する」——Science and Truth
輪廻・カルマ・宇宙創造……、仏教の真理をマイトレーヤ正悟師が科学的に立証する
●「サキャ神賢からの贈り物
——サキャ神賢の輪廻転生に見る真実」——JĀTAKA Stories
パーリ語原典から訳出したサキャ神賢（釈迦牟尼）の前生物語がやさしく読める
●「真理は病を超える」——Health and Truth
こんな病気が治りました！——様々な病が癒された喜びの声をお届けする
●「ズームアップ・オウム真理教」——Monthly Highlights
オウム真理教の大きな動きをヴィジュアルに伝える
●「読者の広場」——EH Members' Square
読者の生の声をお届けする……など、「これは！」と、思わずうなるような内容が盛り

だくさん。人生をリフレッシュしたいあなたに欠かせない一冊です。

「EH会員」大募集!

◎入会金は一切無料、さらにこんなに素晴らしい特典がいっぱい!

『えんじょい・はぴねす』(定価850円)の定期購読(六カ月単位)を申し込まれた方は、「〝えんじょい・はぴねすの会〟会員」、略して「EH会員」になることができます。郵送料込みで費用は六カ月六千円。しかも会員には、以下のような素晴らしい特典が用意されています。

――「EH会員」の特典――

一、オウム真理教で催される各種イベントに自由に参加できます。

二、国内および海外の本部・各支部道場をいつでも利用できます。

三、TPOに応じた電話説法が聴けます。

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記の「『麻原彰晃の世界』読者係」までお送りください。

〒154 東京都世田谷区世田谷2・8・17
オウム出版「『麻原彰晃の世界』読者係」

◆各道場のご案内◆
富士山総本部 0544(54)1267
〒418-02 静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部 03(3327)8565
〒156 東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167 東京都杉並区下井草4-4-4 井口ビル2F
大阪支部 06(397)1022
〒532 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部 092(474)2877
〒812 福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部 052(252)0709
〒460 愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部 011(241)4938
〒060 北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部 075(371)3759
〒600 京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部 022(268)3904
〒982 宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部 0762(51)8457
〒920 石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部 0888(84)8286
〒780 高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部 082(264)6250
〒732 広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部 045(243)8079
〒231 神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢崎長者町ビル204
和歌山支部 0734(24)2859
〒640 和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部 0292(26)8044
〒310 茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部 0474(66)4965
〒274 千葉県船橋市新高根6-26-18
埼玉出張所 0485(74)6205
〒366 埼玉県深谷市萱場441-8
布施精舎 03 (3476) 5065
〒150 東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部 212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部 (0228)616647
Auf dem Hugel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany

『麻原彰晃の世界』PART2

一九九一年九月一四日　初版発行

定　価　九八〇円

発行者　松本知子
　　　　石井久子

編　集　オウム出版広報編集部

発行所　株式会社オウム

東京都世田谷区世田谷二－八－十七

郵便番号　一五四

電　話　〇三（三四三三九）六〇四三

振　替　東京二－一〇九三二五

乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

©Shoko Asahara 1991

ISBN4-900497-64-9 P980E



麻原彰晃の
世界 PART2

尊師、麻原彰晃が斬る!

ISBN4-900497-64-9　C0014　P980E　定価980円（本体951円）